

平成二十四年度 全国学力・学習状況調査

解説資料 小学校 国語

平成二十四年四月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

はじめに

平成二十四年度全国学力・学習状況調査は、小学校第六学年及び中学校第三学年の児童生徒を対象に、四月十七日に実施されました。

調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。

これまでは、国語と算数・数学について、調査してまいりました。今年度は、昨年三月にまとめられた、全国的な学力調査の在り方等の検討に関する専門家会議の「検討のまとめ」において、次代を担う科学技術人材の育成がますます重要な課題となっていくこと等を踏まえ、学習指導要領（平成二十年告示）において、理数教育の充実が図られたことを受けて、理科を追加して実施することとなりました。

調査の内容には、教科に関する調査（国語、算数・数学及び理科）と、生活環境や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒対象及び学校対象）があります。

教科に関する調査は、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題の二種類からなります。

主として「知識」に関する問題は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、②実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていくことが望ましい知識・技能などを調査するものです。また、主として「活用」に関する問題は、①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する

力などに係る内容を調査するものです。

国語と算数・数学については、これまでと同様、「知識」と「活用」のそれぞれの問題ごとの調査となっています。理科については、前記専門家会議の検討のまとめに沿って、「知識」と「活用」を一体的に問う形の調査となっています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターにおいては、教科に関する調査に係る調査問題の作成と調査結果の分析を担当しております。

この調査においては、児童生徒一人一人の学力や学習状況の把握はもとより、今後の指導や学習の改善に生かしていくことが重要であるため、調査問題の作成に当たっては、学習指導要領に示されている内容が正しく理解されるよう留意するとともに、児童生徒に身に付けさせたい力として重視されるものについての具体的なメッセージとなるように努めました。

本資料は、教科に関する調査に係る調査問題について、実施後速やかに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることができるよう、出題の趣旨や正答とその解説などをまとめたものです。

各学校や教育委員会において、日常の学習指導や教育施策の改善・充実に生かしていただければ幸いです。特に、学校においては、調査対象となる学年や教科以外の先生方を含め、学校全体で活用していただきたいと考えております。

最後に、本調査の実施に当たり御協力いただきました皆様、調査に参加していただいた教育委員会、学校の皆様、本資料の作成に当たり御協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

平成二十四年四月

国立教育政策研究所 教育課程研究センター長

神代 浩

●本書の目的

本書は、平成二十四年度全国学力・学習状況調査の実施後速やかに、学校における児童生徒への学習指導の改善等に役立てることができるよう、教科に関する調査に係る調査問題についての解説などをまとめたものである。

調査問題は、設問ごとの正答率や解答の状況から学習上の課題を把握し、学習指導の改善等につなげることができるよう作成している。

本書においては、問題ごとの出題の趣旨や正答とその解説、その問題と関連して今後の学習指導において参考となる事柄を記述するとともに、設問ごとに予想される解答を整理した解答類型を掲載した。

教科に関する調査については、設問ごとに出題の趣旨に即して解答として求める条件を定め、これに基づいて採点を行っている。解答類型は、採点の際に単なる正誤のみならず、具体的な解答の状況を分析し、学習指導の改善等につなげることができるよう、設問ごとに設定する条件などに即して解答を分類し整理したものである。

教育委員会及び学校等において採点や調査の結果を踏まえた学習指導の改善等を行うに際し、本書を有効に御活用いただきたい。

●本書の内容・構成

I 小学校国語科の調査問題作成に当たって

調査問題作成の基本方針として、調査問題の出題範囲、問題作成の枠組みについて解説した。

II 調査問題の解説

問題ごとに、出題の趣旨、正答とその解説などについて記述した。

1 出題の趣旨

問題ごとに把握する力、場面設定、解答の仕方などについての解説を記述するとともに、学習指導要領における領域・内容及び評価の観点などを示した。なお、学習指導要領については、原則として、平成二十年告示の内容を記載した。平成十年告示の内容を記載する場合は、「学習指導要領（平成十年告示）」と記述した。

2 問題（各設問）の正答等

設問ごとの正答及び誤答などについての解説を記述した。

3 学習指導に当たって

出題の趣旨を踏まえて、今後の学習指導において参考となる事柄を記述した。

4 出典等

著作物からの出題の場合、書名や著者名などを記述した。

III 調査問題等

調査問題、解答用紙及び正答（例）を掲載した。なお、著作権の都合により問題の一部を省略した。

※ 本調査においては、障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒に対して、点字問題、拡大文字問題、総ルビ付き問題を用意した。

なお、点字問題については、問題が一部異なっており、本書ではその部分を掲載した。

2 解答類型

設問ごとの正答、予想される誤答、無解答などを最大十種類に分類し整理した。

正答については、設問の趣旨に即して解答として求める条件を定め、その条件を全て満たしているものを◎で表し、設問の趣旨に即し必要な条件を満たしているものを○で表した。

なお、解答類型には次のように番号を付けた。

類型1～類型8（最大）：正答・予想される誤答の類型（複数の類型が正答となる問題もある）

類型9：「上記以外の解答」（類型1

から類型8までに含まれない

解答）

類型0：「無解答」（解答の記入のないもの）

3 質問紙調査項目（教科関連部分）

質問紙調査項目のうち、小学校国語科の教科に関する項目を掲載した。

（裏表紙の方から見るページ）

1 調査問題一覧表

問題の概要、出題の趣旨、学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式を一覧表にまとめた。

目 次

（裏表紙の方から見るページ）

<p>I 小学校国語科の調査問題作成に当たって 5</p> <p>II 調査問題の解説</p> <p style="padding-left: 20px;">A 主として「知識」に関する問題 11</p> <p style="padding-left: 40px;">1 漢字を読んだり書いたりする 12</p> <p style="padding-left: 40px;">2 狙いを明確にして質問をする 14</p> <p style="padding-left: 40px;">3 情報を関係付けながら話し合う 17</p> <p style="padding-left: 40px;">4 音読の仕方を工夫する 20</p> <p style="padding-left: 40px;">5 百科事典の内容を捉える 23</p> <p style="padding-left: 40px;">6 物語を創作する 26</p> <p style="padding-left: 40px;">7 新聞の報道記事のリードを書く 28</p> <p style="padding-left: 40px;">8 慣用句の意味を理解する 32</p> <p style="padding-left: 40px;">9 漢字を筆順に従って書く 34</p> <p style="padding-left: 20px;">B 主として「活用」に関する問題 37</p> <p style="padding-left: 40px;">1 依頼の手紙を書く〈動物園への訪問〉 38</p> <p style="padding-left: 40px;">2 立場や意図を明確にして話し合う〈中学校の部活動〉 44</p> <p style="padding-left: 40px;">3 雑誌を効果的に読む〈特集「マラソン」〉 52</p> <p>III 調査問題等 63</p> <p style="padding-left: 20px;">国語A（主として「知識」に関する問題） 65</p> <p style="padding-left: 20px;">国語B（主として「活用」に関する問題） 79</p> <p style="padding-left: 20px;">解答用紙 95</p> <p style="padding-left: 20px;">正答（例） 99</p> <p style="padding-left: 20px;">点字問題（抜粋） 103</p>	<p style="text-align: right;">1 調査問題一覧表 1</p> <p style="text-align: right;">A 主として「知識」に関する問題 2</p> <p style="text-align: right;">B 主として「活用」に関する問題 3</p> <p style="text-align: right;">2 解答類型</p> <p style="text-align: right;">A 主として「知識」に関する問題 5</p> <p style="text-align: right;">B 主として「活用」に関する問題 11</p> <p style="text-align: right;">点字問題部分 19</p> <p style="text-align: right;">3 質問紙調査項目（教科関連部分） 21</p>
---	---

I 小学校国語科の調査問題作成に当たって

1 調査問題の基本的な枠組み

小学校国語科の調査問題は、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（以下、報告書という。）（平成十八年四月 全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議）の問題作成の基本理念を基本的な枠組みとし、次のような出題範囲・内容とした。

○ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようなっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）

○ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関する内容など（主として「活用」に関する問題）

この二つの出題範囲・内容からも明らかのように、基本理念には、「実生活」に立脚する学力が含まれている。これは、学校で学習してきた知識・技能等が、児童生徒を取り巻く様々な生活場面に於いて、活用できるようにすることが求められているからである。児童生徒にとつての「実生活」は、各教科等の学習に加え、家庭生活や地域での生活を含めたものである。国語の側面から考えると、読書などに親しむ生活（読書生活）、音声や文字で表現する生活（表現生活）などの言語生活を射程に入れたものである。

「報告書」では、調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して、土台となる基盤的な事項を具体的に示すとともに、教員の指導改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つことを求めている。また、国語科の調査問題においては、次のような観点を盛り込むことなどが考えられるとしている。

■主として「知識」に関する問題

- ・ 描写、要約、紹介、説明、記録、報告、対話、討論などの基礎的な言語活動に関する問題
- ・ 表現したり理解したりするための言語事項の基礎的な知識・技能に関する問題
- ・ 我が国の言語文化に親しむ内容に関する問題 など

■主として「活用」に関する問題

- ・ 日常生活や社会生活で必要とされる読書・鑑賞・創作などの言語活動の活用に関する問題
- ・ 文章を読んで筆者の主張の内容やその表現方法などを評価すること
- ・ 伝えたい内容をまとめ表現すること
- ・ 様々なメディアを活用することによって課題を多角的に探究すること など

これらに加え、「報告書」では、調査問題の内容や形式などについて、次のような点にも配慮することを求めている。

- 学習指導の上で特に重要な点や課題になっている点に焦点を当てること
- 個々の児童生徒への助言につながる点や課題解決の過程において違いが見られやすい点に焦点を当てること
- 児童生徒が自分自身の学習改善や問題解決に役立つ点に配慮すること
- 読解力向上プログラムなどと連動させた問題を考慮すること

さらに、国際的、科学的視点から質の高い調査問題の開発が期待されている。そこで、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成二十年一月十七日 中央教育審議会）及び「報告書」に基づき、OECD（経済協力開発機構）によるPISA調査の概念的な枠組みである主要能力（キルコンピテンシー）の考え方や多様なテキスト、出題の仕方なども参考にするようにした。

このような考え方を踏まえ、出題の範囲・内容は、国の教育課程の基準としての小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）の目標及び内容によるものとした。調査時期が第六学年の四月であるので、第五学年の終了段階において習得すべき指導内容を出題範囲とした。

なお、調査問題は、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に即して、二種類の冊子を作成した。「国語A」を「主として『知識』に関する問題」の冊子とし、解答時間として二十分を配当した。「国語B」は、「主として『活用』に関する問題」の冊子として四十分を配当した。

2 調査問題の出題範囲・内容

(1) 学習指導要領の指導内容

調査問題は、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）の目標及び内容に基づき、第五学年の終了段階における基盤的な内容とした。三領域一事項の具体的な内容は次のとおりである。

■ A 話すこと・聞くこと

- ・ 話題設定や取材に関する指導事項
- ・ 話すことに関する指導事項
- ・ 聞くことに関する指導事項
- ・ 話し合うことに関する指導事項

■ B 書くこと

- ・ 課題設定や取材に関する指導事項
- ・ 構成に関する指導事項

- ・ 記述に関する指導事項
- ・ 推敲すいこうに関する指導事項
- ・ 交流に関する指導事項

■ C 読むこと

- ・ 音読に関する指導事項
- ・ 効果的な読み方に関する指導事項
- ・ 説明的な文章の解釈に関する指導事項
- ・ 文学的な文章の解釈に関する指導事項
- ・ 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項
- ・ 目的に応じた読書に関する指導事項

■ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

① ア 伝統的な言語文化に関する事項

- ・ イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
- ・ 言葉の働きや特徴に関する事項
- ・ 表記に関する事項
- ・ 語句に関する事項
- ・ 文及び文章の構成に関する事項
- ・ 言葉遣いに関する事項
- ・ 表現の工夫に関する事項
- ・ ウ 文字に関する事項

- ・ 仮名の読み書きや使い方に関する事項
 - ・ 漢字の読み書きや使い方などに関する事項
 - ・ 文字文化に関する事項
- ② 書写に関する事項

(2) 主として「知識」に関する問題の内容

「国語A」で出題した問題の内容、学習指導要領と関連する主な指導内容、出題の趣旨、学習指導要領の言語活動例との関連は、次のとおりである。

(「主な指導内容」の項の中で、学年を明記していないものは、第五・六年年の指導内容を示す。「国語B」についても同様である。)

問題番号	問題の内容	主な指導内容	出題の趣旨
1	漢字を読んだり書いたりする	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)ウ(ア)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりする。
2	狙いを明確にして質問をする	話すこと・聞くこと エ (第三・四学年)	狙いを明確にして質問をする。
3	情報を関係付けながら話し合う	話すこと・聞くこと ア	目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合う。
4	音読の仕方を工夫する	読むこと ア・ウ (第三・四学年)	場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読する。
5	百科事典の内容を捉える	読むこと イ (第三・四学年)	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉える。

【学習指導要領の言語活動例との関連】
読むこと イ (第三・四学年)

物語を創作する

書くこと オ
読むこと エ

表現の効果について確かめながら物語を創作する。

【学習指導要領の言語活動例との関連】
書くこと ア (第五・六学年)

新聞の報道記事のリードを書く

書くこと ウ

目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く。

【学習指導要領の言語活動例との関連】
書くこと イ (第三・四学年)

慣用句の意味を理解する

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)アイ (第三・四学年)

日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解する。

漢字を筆順に従って書く

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (2)イ (第一・二学年)

学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書く。

このように、全学年にわたる学習指導要領の三領域一事項の指導内容を焦点化して出題した。

(3) 主として「活用」に関する問題の内容

「国語B」で出題した問題の内容、学習指導要領と関連する主な指導内容、出題の趣旨、学習指導要領の言語活動例との関連は、次のとおりである。

問題番号	問題の内容	主な指導内容	出題の趣旨
1	依頼の手紙を書く 〈動物園への訪問〉	書くこと ア・イ・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)イ(ク)書くこと エ (第三・四学年)	目的や意図に応じ、書く事柄を整理し文章を構成するとともに、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書く。
2	立場や意図を明確にし て話し合う 〈中学校の部活動〉	話すこと・聞くこと ア・エ・オ 書くこと エ	立場や意図を明確にし、情報を整理したり、資料を読み取ったりしながら、計画的に話し合う。
【学習指導要領の言語活動例との関連】 話すこと・聞くこと イ・ウ (第三・四学年)		【学習指導要領の言語活動例との関連】 書くこと エ (第三・四学年)	

3 問題形式

問題形式	問題形式
問題形式については、次の三種類とした。	問題形式については、次の三種類とした。
■ 選択式：数種の項目群の中から適切な項目を選択する方式である。	■ 選択式：数種の項目群の中から適切な項目を選択する方式である。
■ 短答式：短い語句や文、または数値等で解答する方式である。文章や資料からの情報の取り出しなどである。	■ 短答式：短い語句や文、または数値等で解答する方式である。文章や資料からの情報の取り出しなどである。
■ 記述式：相手や目的、意図に応じて自分の意見や提案、理由や根拠、紹介や報告などをまとめ、一定以上の文字数で記述する方式である。	■ 記述式：相手や目的、意図に応じて自分の意見や提案、理由や根拠、紹介や報告などをまとめ、一定以上の文字数で記述する方式である。

このように、まとまった言語活動を設定し、その中で知識・技能等を活用できるかどうかをみるために、学習指導要領の三領域一事項の指導内容を複合させて出題した。

問題形式	問題形式
問題形式については、次の三種類とした。	問題形式については、次の三種類とした。
■ 選択式：数種の項目群の中から適切な項目を選択する方式である。	■ 選択式：数種の項目群の中から適切な項目を選択する方式である。
■ 短答式：短い語句や文、または数値等で解答する方式である。文章や資料からの情報の取り出しなどである。	■ 短答式：短い語句や文、または数値等で解答する方式である。文章や資料からの情報の取り出しなどである。
■ 記述式：相手や目的、意図に応じて自分の意見や提案、理由や根拠、紹介や報告などをまとめ、一定以上の文字数で記述する方式である。	■ 記述式：相手や目的、意図に応じて自分の意見や提案、理由や根拠、紹介や報告などをまとめ、一定以上の文字数で記述する方式である。

記述式の問題では、知識・技能等を生かし、相手や目的、意図、場面や状況などに応じて言語を操作したり運用したりする活用能力をみる。「書くこと」の問題に加え、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の問題においても記述式を採用する。(※参考)

(1) 「話すこと・聞くこと」における記述

「話すこと・聞くこと」の指導においては、相手や目的、意図に
応じ、事柄が明確に伝わるように話す順序や構成を工夫し、適切な
言葉遣いで話す能力を高めるとともに、話の中心や話し手の意図を
捉えながら聞き、質問したり、感想や意見を述べたりする能力を高
めることが重要である。

記述の側面から考えると、スピーチ原稿などのように話す事柄を
分かりやすく整理して書いたり、インタビュー記録などのように聞
いた事柄やそれらに対する感想、意見などを区別して書いたりする
ことができるように指導することが大切である。

今回出題した「国語B」の問題②「立場や意図を明確にして話し合
う〈中学校の部活動〉」は、話す・聞く能力を問うものである。設問
二では、資料「部活動に対する満足度」を読み取った上で中学生に
対して質問をしたいことを発表するように記述することを求めた。

(2) 「書くこと」における記述

「書くこと」の指導においては、相手や目的、意図に
応じて、調
べたり考えたりしたことなどを、全体の構成を考えて文章に書く能
力を高めることが重要である。

記述の側面から考えると、礼状や依頼状、意見文、紹介文、記録
文、報告文などの様々な様式の特徴を踏まえた上で、書くことの
一連のプロセスに即して指導することが大切である。特に第五・六学
年においては、記録や報告などをまとめる場合、経験した事実等を
客観的に記述するとともに、経験等を通して考えたことや得たこと
などを明確にして記述することが必要となる。

今回出題した「国語B」の問題①「依頼の手紙を書く〈動物園への

訪問〉」は、書く能力を問うものである。設問二では、依頼の手紙の
本文の中に相手に求める返事の内容や方法を敬語を使って記述する
ことを求めた。

(3) 「読むこと」における記述

「読むこと」の指導においては、目的に応じ、文章の内容を的確
に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さ
えて自分の考えを明確にしながらかつ読んだりする能力を高めることが
重要である。

記述の側面から考えると、目的に応じて本や文章を読み、その内
容や構造などについて理解したことや、要旨や書き手の意図につい
て解釈したことを書くことができるように指導することが大切であ
る。また、自分の考えを広げたり深めたりするために読む場合にお
いては、自分を取り巻く現実や今までの読書経験、体験などと関係
付け、感想文などに書きまとめるように指導することも大切である。

その際、必要に応じて大事なことを引用したり要約したりして書く
ことができるよう具体的に指導することが重要である。

今回出題した「国語B」の問題③「雑誌を効果的に読む〈特集「マ
ラソン」〉」は、読む能力を問うものである。設問四では、二つの記
事（「世界記録上位5人」・「日本人選手の記録」）に書かれている内
容を結び付けながら読み、金子さんが考える、日本の女子選手の活
躍の理由を記述することを求めた。

今回出題した「国語B」の記述式の問題においては、複数の条件
を付している。解答に必要な内容を的確に捉え、決められた字数の
範囲の中でつながりのある文や文章にまとめて記述する必要がある。

なお、特に記述式の問題は、「読解力向上に関する指導資料」P I S A 調査（読解力）の結果分析と改善の方向」（以下、読解力指導資料という。）（平成十七年十二月文部科学省）に示された、次の観点についても考慮した。

<p>ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること</p> <p>(7) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成</p> <p>(1)(4) 評価しながら読む能力の育成</p> <p>(4) 課題に即応した読む能力の育成</p>	<p>イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること</p> <p>(7) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成</p> <p>(1) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成</p>	<p>ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること</p> <p>(7) 多様なテキストに対応した読む能力の育成</p> <p>(1) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成</p>
--	---	--

4 評価の観点

評価の観点については、国語科で行われている「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」の五つの観点を用的ことにした。

なお、国語への関心・意欲・態度の観点については、各設問で取り上げた実際の授業場面や実生活での活用場面などにおいて、その観点が深く関与すると考えられる、記述式の問題を中心に設定した。

(※参考)

平成二十四年度調査問題における記述式の設問について

設問番号	設問内容及び「読解力指導資料」の観点との関連
国語 B 1 設問二	<p>平川さんは、本文の B の中に、宮本さんからどのようにして返事をもらおうかということについて書くようになっています。次の【平川さんが書いたメモ】の内容をもとに、あとの条件に合わせて書きましよう。</p> <p>【「読解力指導資料」の観点との関連】イ(1)</p>
国語 B 2 設問二	<p>②白石(司会)さんは、グループの人たちに、資料「部活動に対する満足度」をもとにして、中学生に対する質問を出してもらおうとしています。あなたなら、アのところでのどのような質問を考えて発表しますか。次の条件に合わせて書きましよう。</p> <p>【「読解力指導資料」の観点との関連】イ(7)・ウ(7)(1)</p>
国語 B 3 設問四	<p>金子さんは、日本の女子選手と男子選手のそれぞれについて考えたことをまとめています。【金子さんがまとめた内容】の□の中には、どのような内容を書くといですか。あとの条件に合わせて書きましよう。</p> <p>【「読解力指導資料」の観点との関連】ア(7)・イ(7)・ウ(7)(1)</p>

Ⅱ 調査問題の解説

A 主として「知識」に関する問題

一 次の(1)から(3)までの文の——部の漢字の読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

(1) 新しいビルを 建築 する。

(2) 親から 独立 してくらす。

(3) 参加することを 計 ず。

二 次の(1)から(3)までの文の——部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましょう。

(1) 病院で いしや にみてもらう。

(2) 東から たいよう がのぼる。

(3) 白い ぬの を青くそめる。

1 出題の趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる。

第五学年までに習得した漢字を文の意味に沿って正しく読んだり書いたりする問題である。

ここでは、既習の漢字の定着状況をみるために、第一学年（「立」）、第二学年（「太」）、第三学年（「医」、「者」、「陽」）、第四学年（「建」）、第五学年（「築」、「独」、「許」、「布」）の配当漢字を取り上げた。文の意味を理解した上で、漢字を正しく読んだり書いたりすることが求められる。

本問と過去の調査との関連をみると、今回出題した漢字は全て過去に出題したものと同一である。（※参考）

漢字を正しく読み、正しく書く力は、理解したり表現したりするために必要な知識や技能であり、漢字を含む語彙の拡充を図るためにも重要である。また、国語科のみならず、各教科等の学習の基礎となる力であり、日常生活に欠かせない知識や技能である。

■学習指導要領における領域・内容

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（第五・六学年）

(1) ウ 文字に関する事項

(ア) 第五学年及び第六学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 各設問の正答等

設問一

(1) 正答について

■正答

- (1) けんちく
 (2) どくりつ
 (3) ゆる(す)

設問二

(1) 正答について

■正答

- (1) 医者
 (2) 太陽
 (3) 布

3 学習指導に当たって

(1) 当該学年までに配当されている漢字を習得する

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりして、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で使えるようにすることが重要である。そのためには、学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で実際に使用することで、確実に習得できるように指導することが大切である。

その際、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義や同訓異義の漢字に注意して使ったりするように指導することも大切である。

(2) 国語辞典や漢字辞典の利用を習慣付ける

漢字を習得し語彙を拡充するためには、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることが重要である。その際、辞書の使い方を理解するとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくっておくことが大切である。また、国語科のみならず、各教科等の調べ学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用し、語彙を広げ、漢字を正しく表記できるように指導することが大切である。

(※参考) 過去の調査との関連

設問番号	関連する過去の実施年度(実施学年)・正答率(%)
一(1)	平成十六年度(第五学年) 八三・七
一(2)	平成十六年度(第五学年) 七七・一 平成十六年度(第六学年) 九五・九
一(3)	平成十五年度(第五学年) 九三・九
二(1)	昭和三十四年度(第六学年) 四七・七
二(2)	平成十六年度(第四学年) 八〇・〇 平成十六年度(第五学年) 七六・八
二(3)	平成十六年度(第六学年) 七九・一

〔過去の調査〕

- ・昭和三十四年度全国学力調査
- ・平成十五年度小・中学校教育課程実施状況調査
- ・平成十六年度特定の課題に関する調査

2

中村さんは、次の「高木さんの発表のはじめの部分」を聞きながら、質問をしたい内容をカードに書いています。カードの内容は、どのようなねらいをもっていますか。その説明として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

〔高木さんの発表のはじめの部分〕

みなさん、野生動物とはどのような動物か知っていますか。野生動物とは、山や野原などの自然の中でくらすしている動物たちのことです。その種類を正確につかむことは難しく、五百万とも五千万ともいわれています。その野生動物の一部が世界各地で絶滅の危機に直面しているというニュースで知りました。そこで、わたしは、どのような原因で絶滅が進んでいるのか疑問をもち、調べてみることにしました。

～（発表が続く）～

〔中村さんが書いたカード〕

野生動物の一部が世界各地で絶滅の危機に直面しているというのだが、それらの動物の名前をいくつか教えてほしい。

- 1 調べるために役に立った資料は、どのようなものかを知ろうとしている。
- 2 最も伝えたかったことは、どのようなことを確かめようとしている。
- 3 発表の内容について、どのような具体例があるのかを知ろうとしている。
- 4 調べたきっかけは、どのようなことだったのかを確かめようとしている。

1

出題の趣旨

狙いを明確にして質問をすることができかどうかをみる。

話し手の話の内容を聞きながら書いた質問について、その狙いを適切に説明したものを選択する問題である。

ここでは、調べたことについての発表を聞きながら、質問をしたい内容をカードに書く場面を設定した。カードに書かれた質問の狙いを適切に捉えることが求められる。

本問と過去の全国学力・学習状況調査（以下、全国調査という。）との関連をみると、平成二十二年度の「国語B」〔3〕「写真を使って発表する（家の屋根の形）」設問三〕において、話し手への質問がどのような観点によるものであるかを考え、適切なものを選択する問題を取り上げている。（※参考①）

話し手の意図を考えながら聞き、話の要点、気付いたことや疑問に思ったことなどを書き留め、狙いを明確にして質問をすることは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと（第三・四学年）

エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

■評価の観点

話す・聞く能力

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

選択肢 3 発表の内容について、どのような具体例があるのかを知らうとしている。

■解説

○ 中村さんが書いたカードの質問の内容は、世界各地で絶滅の危機に直面している野生動物の名前をいくつか聞き出すことである。カード中の「動物の名前をいくつか」とは、具体例のことであると捉える必要がある。

(2) 誤答について

■解説

- 選択肢 1 ↓ 調べるために有効であった資料を知らうとする狙いをもつので誤答である。
- 選択肢 2 ↓ 話し手の意図や結論を確認しようとする狙いをもつので誤答である。
- 選択肢 4 ↓ 調べようとした契機を確認しようとする狙いをもつので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 様々な観点に合わせて質問を工夫する

話し手の意図を考えながら聞き、様々な観点に合わせて質問をすることが重要である。具体的な観点としては、

- ・話し手の意図を考え、伝えたい事柄をより深めるための質問
- ・自分の理解度を確認するための質問
- ・取材や構成時の工夫についての質問
- ・自分の意見と比べるための質問
- などが考えられる。

このことに関連して、平成二十二年度の全国学力・学習状況調査小学校の結果を踏まえた授業アイディア例（以下、授業アイディア例という）「観点に合わせて質問を工夫すること、話し手の意図を踏まえながら的確に聞く」において、授業の具体的な進め方を例示している。（※参考②）

(2) メモを取りながら話を聞く

大事なことを落とさないように、メモを取りながら話を聞くことが重要である。そのためには、重要な語句や話の中心をキーワードとして取り出したり、見出しに合わせてまとめたりすることができるように指導することが大切である。その際、項目ごとや時間軸に基づいたメモの構成を工夫したり、色別の付箋を活用したりすることなどが考えられる。

（※参考①）過去の全国学力・学習状況調査との関連

設問番号	設問の概要	正答率(%)
H 22 B 3 三	聞き手が質問した内容に合う質問の観点を選択する	七〇・一

(※参考②) 授業アイデア例との関連

【平成22年度「国語B」③「写真を使って発表する〈家の屋根の形〉」】

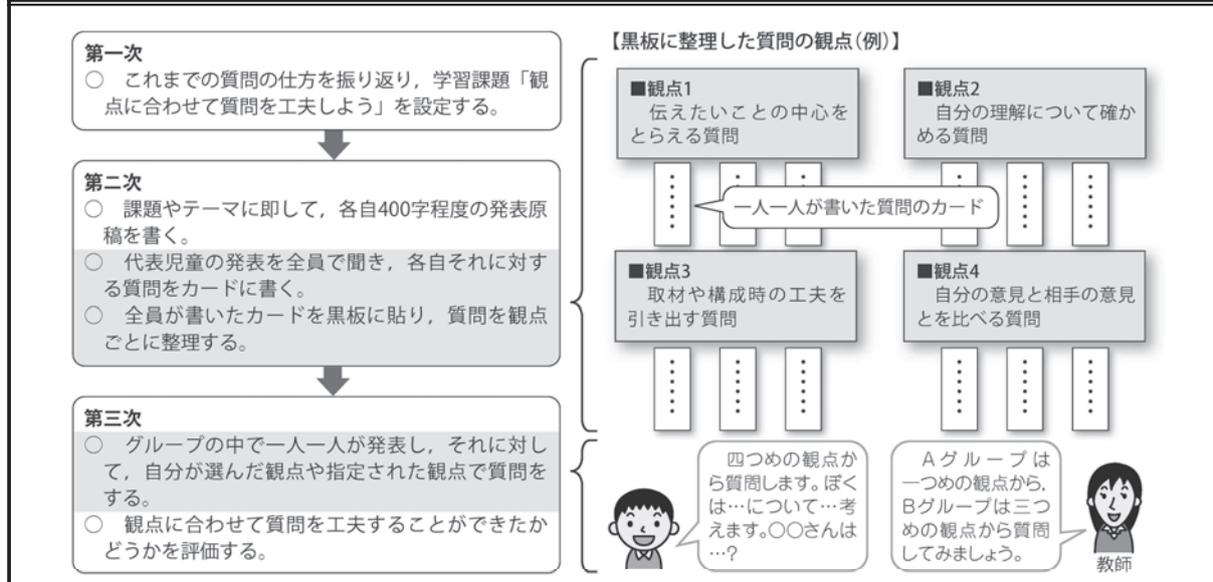
観点に合わせて質問を工夫することで、話し手の意図を踏まえながら的確に聞く。

■学習指導要領（平成10年告示）における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

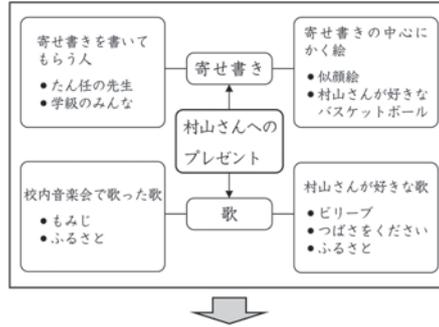
イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。



3

今田さんの学級では、転校する村山さんへのプレゼントを何にするか、グループごとに提案し合うことになりました。今田さんのグループでは、出された内容を次の図のように整理しながら話し合いました。そして、グループとしての提案を決めることにしました。

【グループで出された内容を整理した図】



【グループとしての提案を決めている様子】

今田 それでは、グループとしての提案を決めることにします。転校する村山さんへのプレゼントは、寄せ書きと歌の二つでいいですか。

全員 はい。

今田 寄せ書きを書いてもらう人は、たん任の先生とアです。寄せ書きの中心にかく絵は、似顔絵と村山さんが好きなバスケットボールにします。歌は、校内音楽会で歌った歌で、村山さんが好きな歌でもある、イを学級のみんなで歌うことにしたらどうでしょうか。

全員 はい。いいと思います。

今田 では、これらをグループの提案とします。

ア

イ

の中に入るふさわしい言葉を、図の中からそれぞれぬき出しましょう。

1

出題の趣旨

目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合うことができるかどうかをみる。

収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から適切な内容や共通する内容を取り出して書く問題である。

ここでは、村山さんへのプレゼントの内容について話し合い、図（ウェビング〈webbing〉）※あるテーマを設定し経験や興味・関心に基づいて派生する、あるいは関連するものを蜘蛛の巣（web）状に図式化して表現する手法）に整理した後、グループとしての提案を決める場面を設定した。【グループで出された内容を整理した図】を読み取り、提案するために必要な情報を関係付けながら取り出すことが求められる。

話し合いの内容を整理したり、分析したりして思考することは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと（第五・六学年）

ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。

■評価の観点

話す・聞く能力

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

- ア 学級のみんな
- イ ふるさと

■解説

- 今田さんのグループでは、転校する村山さんへのプレゼントとして、寄せ書きと歌の二つを提案しようとしている。
- アについては、【グループで出された内容を整理した図】の中から、寄せ書きを書いてもらう人として適切な内容を取り出す必要がある。【グループとしての提案を決めている様子】の中に「たんの先生」と記述されていることを押さえた上で、「学級のみんな」という言葉を正しく取り出して書く必要がある。

- イについては、【グループで出された内容を整理した図】の中から、校内音楽会で歌った歌と村山さんが好きな歌に共通する内容を取り出す必要がある。【グループとしての提案を決めている様子】の中に「校内音楽会で歌った歌で、村山さんが好きな歌でもある」と記述されていることを押さえた上で、「ふるさと」という言葉を正しく取り出して書く必要がある。

(2) 誤答について

■解説

- アについては、「学級のみんな」の言葉の中の「学級」のみ、あるいは「みんな」のみを取り出して解答しているものは誤答とする。
- イについては、「ふるさと」と正しく平仮名で解答していないものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 収集した知識や情報を関係付けて話し合う

目的に応じ、収集した知識や情報を関係付けながら話し合うことが重要である。そのためには、知識や情報を図表などに整理し相互関係を押さえながら、話し合うことができるように指導することが大切である。例えば、本問で取り上げたウエビンのほかにもベン図やカードなどを用いることが考えられる。

このことに関連して、各教科等の学習指導との結び付きを重視する総合的な学習の時間の指導においては、収集した情報を整理したり分析したりして思考する具体的な指導例を、文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』（平成二十二年十一月）で提示している。（※参考）

(2) 話合いの規模を工夫する

司会や参加者の役割を理解し、話合いの規模に応じて、児童一人一人がそれぞれの役割を果たす経験をすることが重要である。話合いの規模については、ペアや小グループから、学級全体へと話合いの形態を工夫して指導することが大切である。その際、互いの考えの共通点や相違点をよく確認しつつ、話合いを進めるように指導することが重要である。また、特別活動における集団としての意見をまとめる話合い活動など他教科等とも関連付けながら、児童の日常生活に生きて働くように多くの話合いの場を設定することも大切である。

(※参考)『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 (小学校編)』の一部
アドレス http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300434.htm

1. 課題の設定

総合的な学習の時間では、児童が自ら課題意識をもち、その意識を連続発展させることが欠かせない。しかし、児童が自ら課題をもつためには、教師はただ待つのではなく、意図的な働きかけを行い、学習対象とのかかわり方や出合わせ方などを工夫することが大切である。

課題の設定においては、次の点に配慮することが大切である。

- 人、社会、自然に直接かかわる体験活動を重視すること
- 児童の発達や興味・関心を適切に把握すること
- これまでの児童の考えとの「ずれ」や「隔たり」、理想と現実の対比などを大切にすること
- 各教科等で身に付けた知識・技能を積極的に活用すること

事例⑦ ウェビングでイメージを広げて課題を設定する

ウェビングを活用しイメージを広げることで、児童はテーマを多面的にとらえたり、細分化して具体的にとらえたりしながら課題を見出していくことができます。

【実践例 テーマからウェビング】

- 1 中心テーマを決める。
- 2 ウェビングで自分の中のイメージを広げる。
- 3 完成したウェビング図を分析する。
(例)・同じ内容を線で囲む
・関連のあるキーワードを線でつなぐ
・最も重要だと思うところに印を付ける など
- 4 友達の考えと比較しながらグループや学級の課題を明らかにしていく。



【ポイント】

- 中心テーマの設定例
 - ・各校で定める学年テーマ
 - ・地域の特色など単元の題材となる事柄
 - ・課題づくりのきっかけとなる体験 など
- ウェビング図の分析
 - ・明らかになった問題から課題を設定する
 - ・細分化した問題から課題を見いだす など
- ウェビング図を基にした話し合い
 - ・他者の考えと比較する中で、問題の共有化がなされ、課題意識の高まりが期待される。
- 教科等関連
 - ・社会科等における、比較・関連付けながら再構成する力との関連。

3. 整理・分析

多様な方法で収集した情報を、整理したり分析したりして、思考する活動へと高めていくことが望まれる。収集した情報を種類ごとに分類したり、細分化して因果関係を導き出したり、批判的・複眼的な視点で分析したりする。それが思考することであり、そうした学習活動を位置付けることが重要である。

整理・分析においては、次の点に配慮することが大切である。

- どのような情報が、どの程度収集されているかを把握すること
- どのような方法で情報の整理・分析を行うのかを決定すること
- 整理・分析する活動として、「比較して考える」「分類して考える」「序列化して考える」「関連付けして考える」などの思考との関係を意識すること
- 国語科や社会科、算数科、家庭科などの教科等での学習との関連を図り、教科等と総合的な学習の時間が互いに支え合うように配慮すること

4 音読の仕方を工夫する

4

小森さんの学級では、一人一人がお気に入りの話を選んで、音読の発表会をすることにしました。小森さんは、次の「ないしょ」という笑い話を選び、音読の仕方を考えています。話の中の①から④までのそれぞれの会話文は、どのような声の大きさと速さで読むとよいですか。【音読の仕方】の中のアかイのどちらかを選んで、その記号をそれぞれ書きましょう。

【小森さんが選んだ話】

（さとうわきこ）『小さなわらわいばなし』 4 による。

【音読の仕方】

ア はなれた場所から話しかけるように、大きめの声で読む。
イ はかのだれかに聞かれないように、小さな声で読む。

①の会話文…

②の会話文…

③の会話文…

④の会話文…

※解答は、解答用紙に書きましょう。

1 出題の趣旨

場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読することができかどうかをみる。

場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読み、四つの会話文の音読の仕方として適切なものをそれぞれ選択する問題である。

ここでは、音読の発表会に向けて、自分が選んだ笑い話のおもしろさが伝わるように、音読の仕方を考えている場面を設定した。笑い話の場合、笑いの中心を捉えて、登場人物の言動のおもしろさが相手に伝わるように、工夫して音読することが求められる。

文章全体の内容や構成を基に、場面の様子や笑いの中心を捉えて、音読の仕方を工夫することは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと（第三・四学年）

ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

■評価の観点

読む能力

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

- ①の会話文 ア
- ②の会話文 イ
- ③の会話文 イ
- ④の会話文 イ

■解説

○ 「ないしょ」では、鳩はとには人間の言葉が分からないはずなのに、お百姓とお助どんが小さな声で会話しているところに笑いの中心がある。文章全体の内容や構成を基に、これを捉え、①、②、③、④の全てを正しく解答する必要がある。

○ ①の会話文は、五助どんによるものである。①の会話文の後、お百姓がお助どんのそばに寄っていることから、①の会話文の時点では、二人が離れた場所にいることを捉え、アを選択する必要がある。

○ ②の会話文は、お百姓によるものである。五助どんに対して、ほかの誰かに聞かれないように注意している状況を捉え、イを選択する必要がある。

○ ③の会話文は、五助どんによるものである。お百姓に「声が低い」と注意されたこと、③の会話文の直前に「小さな声で」とあることを捉え、イを選択する必要がある。

○ ④の会話文は、お百姓によるものである。会話文の中で、「鳩にきかれてはまずい」とあるように、お百姓は、会話の内容を鳩に聞かれまいとしていることを捉え、イを選択する必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ ①の会話文にア、②の会話文にイ、③の会話文にイ、④の会話文にイと解答していないものは誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 内容の中心や場面の様子を捉えて音読する

内容の中心や場面の様子を捉えて音読することが重要である。そのためには、一文一文などの表現をばらばらに取り上げて音読するのではなく、場面の移り変わりを捉えながら、中心を把握して音読ができるように指導することが大切である。あわせて、声の大きさや質、速さ、間の取り方などについて具体的に指導することが重要である。

(2) 自分の思いや考えが伝わるように朗読する

音読が、文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して、朗読は、児童一人一人が自分なりに解釈したことや、感心や感動したことなどを、文章全体に対する思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝えることに重点がある。そのことを踏まえ、特に第五・六学年においては、一人一人の感じ方や思い、考えなどが違うことを大事にし、どのように音声化すれば聞き手にもよく味わってもらえるかなどを考えながら朗読できるように指導することが大切である。

このことに関連して、平成二十二年度の授業アイディア例「朗読の工夫について相互評価すること」で、登場人物の性格や心情、相互関係についての理解を深める」において、授業の具体的な進め方を例示している。(※参考)

4 出典等

さとうわきこ「ないしょ」『小さなわらいばなし 4』一九七五年五月 株式会社こずえ)による。

(※参考) 授業アイデア例との関連

【平成22年度「国語A」③「登場人物を関係付けて読む」】

朗読の工夫について相互評価することで、登場人物の性格や心情、相互関係についての理解を深める。

■学習指導要領（平成10年告示）における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

第一次

○ これまでの朗読の仕方について振り返り、学習課題「朗読の工夫について互いに評価しよう」を設定する。

例：平成20年度調査B②
『大造じいさんとガン』椋鳩十作

第二次

○ 物語を読んで、登場人物の性格や心情、相互関係をとらえる。
○ グループごとに朗読する場面を決め、台本を書いて練習する。

第三次

○ グループごとの朗読を聞き、解釈の仕方について話し合ったり、声の出し方について評価したりする。

【グループごとに書いた台本(例)】

場面	人物 (朗読する人)	セリフ	読み方の工夫	
			声の出し方	理由
残雪を見送る場面	大造じいさん (Aさん)	「セリフ」については、登場人物による会話文だけでなく、地の文も取り上げる。	はっきりと呼びかけるように	ずっと敵対関係でにくく思っていた残雪のことを、正々堂々と勝負するのにふさわしい相手だと認め、来年の勝負を楽しみにしていることを表したいから。
	ナレーター (Bさん)		ゆっくりと落ち着いて	大造じいさんが今までの残雪との関係を思い返したり、これからの残雪との関係を想像したりしていることを表したいから。



「読み方の工夫」については、読み取った登場人物の性格や心情、相互関係を「理由」として、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などの「声の出し方」に反映できるようにする。

5 野村さんは、サクラについて興味をもち、百科事典で調べて分かったことをノートにまとめました。
 ア・イ の中に入るふさわしい言葉を、「百科事典の記述の一部」の中からそれぞれぬき出しましょう。

【百科事典の記述の一部】

サクラ【桜】

日本のサクラは、美しく、たくさんの種類がある。

～（中略）～

サクラは、古くから日本人々に親しまれている。花見は、サクラの花を見て楽しみ、春の訪れを感じる行事として広く行われている。また、サクラは、短歌や俳句などの題材として取り上げられている。

サクラは、日常の生活の中でも使われている。塩づけにしたサクラの葉でもちをくんだものは、桜もちと呼ばれる。桜湯とは、塩づけにしたサクラの花を湯に入れたもので、お祝いのときなどに飲まれている。サクラの樹皮は、皿や茶づつなどの工芸品として使われている。

～（内容が続く）～



▲サクラ (ソメイヨシノ)

【ノートの一部】

サクラ<桜>

○ 花見…サクラの花を見て楽しみ、春の訪れを感じる行事	親しまれ方
○ 短歌や俳句…サクラを題材として取り上げている	
○ 桜もち…塩づけにしたサクラの葉でもちをくんだもの	食品
○ ア …塩づけにしたサクラの花を湯に入れたもの	
○ 樹皮を使って作られた皿や茶づつなど	イ

～（内容が続く）～

1 出題の趣旨

百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉えることができるかどうかをみる。

百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く問題である。

ここでは、興味をもったことについて、百科事典で調べて分かったことをノートにまとめる場面を設定した。目的に応じて、中心となる語や文を捉えて、適切に取り出すことが求められる。

本問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十一年度の「国語A」〔6〕「段落の内容をとらえる」において、説明的な文章の一部を読み、語句や文に着目して段落の内容を的確に捉える問題を取り上げている。（※参考①）

目的に応じて本や文章を選んで読み、中心となる語や文を押さえながら、内容を的確に捉えることは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと（第三・四学年）

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

■学習指導要領の言語活動例との関連

C 読むこと（第三・四学年）

イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。

■評価の観点

読む能力

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

- ア 桜湯
- イ 工芸品

■解説

○ アについては、【ノートの一部】の中の「桜もち」の説明の記述と関係付けて捉える必要がある。【百科事典の記述の一部】のサクラの使われ方について書かれた段落には、「桜もち」と「桜湯」の説明がある。「桜湯」の説明としては、「塩づけにしたサクラの花を湯に入れたもの」とある。この記述内容を押さえ、「桜湯」と正しく取り出して書く必要がある。

○ イについては、アと同様に、【百科事典の記述の一部】のサクラの使われ方について書かれた段落に着目すると、「サクラの樹皮は、皿や茶づつなどの工芸品として使われている。」とある。この記述内容を基にしてノートにまとめた「樹皮を使って作られた皿や茶づつなど」とは、「工芸品」を指していることを捉え、それを正しく取り出して書く必要がある。あわせて、【ノートの一部】の中の「桜もち」と「桜湯」を、「食品」と上位の概念で表した記述と関係付けて捉える必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ 【百科事典の記述の一部】の中から、「桜湯」、「工芸品」と正しく取り出して解答していないものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 目的に応じ、内容を的確に捉える

目的に応じ、中心となる語や文、段落相互の関係を押さえて、内容を的確に捉えることが重要である。そのためには、語と語、文と文、段落と段落の関係を押さえながら、文章全体の内容を捉えることができるように指導することが大切である。その際、事実や意見などを区別したり、それらの関係を捉え、図や表などに構造的にまとめたりすることが効果的である。さらに、捉えた内容について、自分の考えをもつことができるように指導することも大切である。

このことに関連して、平成二十一年度の授業アイディア例「本の内容や筆者の意図を簡潔に押さえ、ノートに整理する」において、授業の具体的な進め方を例示している。(※参考②)

(2) 百科事典などの資料を効果的に活用する

目的に応じて、百科事典などの資料を効果的に活用することが重要である。そのためには、学校図書館などの本の配置を押さえた上で、目的に応じて適切な資料を選んだり、書名や目次、索引などを利用しながら読んだりするなど、効果的な読み方を身に付けることができるように指導することが大切である。また、複数の資料を比べて読むことで、豊富な知識や情報を獲得したり、内容面や形式面での様々な違いを発見したりすることができるように指導することも大切である。

(※参考①) 過去の全国学力・学習状況調査との関連

設問番号	設問の概要	正答率(%)
H21 A 6	図鑑を読んで必要な内容をとらえる	七八・八

(※参考②) 授業アイデア例との関連

【平成21年度「国語B」③「自分の考えをまとめるために読む〈マナーやルール〉】

本の内容や筆者の意図を簡潔に押さえ、ノートに整理する。

■学習指導要領（平成10年告示）における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

エ 書かれている内容について事象と感想，意見の関係を押さえ，自分の考えを明確にしながらか読むこと。

オ 必要な情報を得るために，効果的な読み方を工夫すること。

■ 目的や課題を設定し，関係のある本や文章を探して読む。

(例：平成19年度全国学力・学習状況調査 国語B②
新聞記事を書く〈環境問題〉)

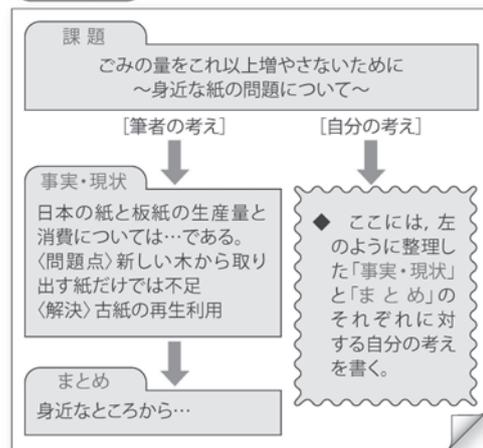
■ 本や文章の内容をとらえて，短い言葉で要点をまとめる。

■ 文章全体の展開や筆者の考えをとらえて，ノートに整理する。また，「事実・現状」と「まとめ」については，それらに対する自分の考えを書く。〈参照：ノート(例)〉

■ 本や文章を読んで考えたことを発表し合う。

※ 新聞やパンフレットなど表現するものの特徴に合わせて書き換えるなど，言語活動を工夫する。

ノート(例)



6 物語を創作する

6 青木さんの学級では、一人一人が物語を書いて、発表し合うことにしました。青木さんは、次のように下書きをしたあと、書き直しをしました。そして、書き直しをしたところをグループの人たちに説明しています。「グループでの青木さんの説明」の□の中に入る言葉として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

〔下書きをした物語の一部〕

転校生がやって来る日の朝、教室の中は落ち着かなかった。
ガラガラという教室のドアが開く音がした。そこに学級全員の注目が集まった。
先生に続いて、男の子が入ってきた。
「今日からみんなといっしょに勉強することになった上田勇二さんです。」
先生のしよっかいを全員が耳をすまして聞いていた。その中に首をかしげている女の子がいた。
～（物語が続く）～

〔下書きの書き直しをした物語の一部〕

転校生がやって来る日の朝、広子は落ち着かなかった。
ガラガラという教室のドアが開く音がした。広子は、身を乗り出して入り口をじっと見た。先生に続いて、男の子が入ってきた。
「今日からみんなといっしょに勉強することになった上田勇二さんです。」
先生のしよっかいを聞きながら広子は、首をかしげた。初めて会ったはずの勇二とどこかで会ったことがあるような気がした。
～（物語が続く）～

〔グループでの青木さんの説明〕

下書きは、教室の全体の様子をながめながら、そこで起きている事実を中心に書きました。でも、その時の人物の様子がくわしく伝わらないのではないかと考えました。そこで、□の立場に寄りそって、細かな動きやその時に感じたことが具体的に分かるように書き直しました。

- 1 学級全員
- 2 先生
- 3 勇二
- 4 広子

1 出題の趣旨

表現の効果について確かめながら物語を創作することができるとどうかをみる。

創作した物語の語り手が寄り添っている人物として適切なものを選択する問題である。

ここでは、青木さんが下書きをした物語を見直した後、グループの人たちにどのような狙いで書き直したのかを説明する場面を設定した。書き直しの前後の物語を比べ、両方の表現の仕方や効果を評価した上で、語り手が寄り添っている人物を捉えることが求められる。

語り手の視点に注目して物語を創作することは、読むことの指導との関連からも重要である。

■学習指導要領における領域・内容

- B 書くこと（第五・六学年）
 - オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
 - C 読むこと（第五・六学年）
 - エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

■学習指導要領の言語活動例との関連

- B 書くこと（第五・六学年）
 - ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。

■評価の観点

- 書く能力
- 読む能力

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

選択肢 4 広子

■解説

○ 創作した物語の下書きを、どのような狙いで書き直したのかを捉えるためには、どの部分の表現がどのような意図をもって書き直されているのかを見ていく必要がある。本問では特に、主語に注目する必要がある。【下書きをした物語の一部】の主語については、「教室の中は」や「全員が」などであり、教室全体の様子を俯瞰するよう書いている。一方、【下書きの書き直しをした物語の一部】の主語は、「広子は」に転換しており、【下書きをした物語の一部】と同様に三人称で語られているが、その視点は特に「広子」に限定されている。「身を乗り出して入り口をじっと見た」や「どこかで会ったことがあるような気がした」などのように、広子の細かな動きやその時に感じたことが具体的に書かれていることを捉える必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ 選択肢 1、2、3 は、【下書きの書き直しをした物語の一部】において、語り手が寄り添っている登場人物ではないので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 物語の基本的な特徴を押さえて創作する

物語を創作する際には、主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割をもっていること、フィクション（虚構）の世界が物語られていることなどの物語の基本的な特徴を押さえておくことが重要である。また、物語全体の構成（「状況設定―発端―事件展開―山場―結末」など）の効果や、一人称や三人称などの語り手の視点について理解しておくことも大切である。これらの物語の基本的な特徴を押さえて物語を創作する際、読むことの指導と関連を図ることも重要である。

(2) 創作することを楽しむ

経験したことなどを基に、物語や随筆、詩、短歌、俳句などの創作の指導においては、児童の思いを大切にしながら、創造的な表現をすることの楽しさを実感させることが重要である。なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）「書くこと」では、次のような創作に関する言語活動例を挙げている。

- ・身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。（第三・四学年）
- ・経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。（第五・六学年）

このように、多様な言語活動を系統的に取り上げて指導することが大切である。

7 新聞の報道記事のリードを書く

7 第三小学校の新聞委員の内山さんは、学校の合唱部が活やくしていることを学校新聞の記事に書くことにしました。【学校新聞の記事の一部】の□の中に、「取材した内容の一部」の①から④までを一文にまとめて書きます。書き出しの言葉に続く内容を、二十字以上、三十字以内で書きましょう。
(書き出しの言葉は、字数にはふくみません。)

- 【取材した内容の一部】
- ① 合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれた。
 - ② そのコンクールに、第三小の合唱部が出場した。
 - ③ 第三小の合唱部は、そのコンクールで金賞に選ばれた。
 - ④ 第三小の合唱部は、来月開かれる全国大会に出場することになった。
- 5 (メモが続く) 5

第三小☆学校新聞 平成24年7月号

【学校新聞の記事の一部】

第三小の歌声 全国へ
県大会で金賞

七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、

5 (記事が続く) 5

1 出題の趣旨

目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことが出来るかどうかをみる。

新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く問題である。

ここでは、新聞委員が合唱部の活躍を学校新聞の記事に書く場面を設定した。取材した四つの内容を、新聞の報道記事のリードにして一文にまとめて書くことが求められる。

本問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十二年度の「国語A」(4)「文の論理を考えて書く」において、相手に伝えたいことを明確に表現するために、事象と意見との関係を区別しながら、文の論理を考えて書く問題を取り上げている。(※参考①)

新聞記事を書くためには、いわゆる逆三角形の構成と呼ばれる、「見出し・リード・本文」の三つの関係を理解することが大切である。リードについては、とりわけ5 W 1 H (when 「いつ」、where 「どこ」、who 「誰が」、what 「何を」、why 「なぜ」、how 「どのように」)などの事柄を整理して簡潔に書くことは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

- B 書くこと(第五・六学年)
ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

■学習指導要領の言語活動例との関連

- B 書くこと(第三・四学年)
イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。

■評価の観点
国語への関心・意欲・態度
書く能力

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答例

○ (七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、)金賞に選ばれ、来月開かれる全国大会に出場することになった。(二十九字)

■解説

○ 書き出しの言葉に続け、【取材した内容の一部】の③と④に書かれている内容をまとめて、二十字以上、三十字以内の一文で書く必要がある。正答の条件は、次の三つとする。

① 【取材した内容の一部】の③と④に書かれている内容をまとめている。

② 書き出しの言葉に続けて、一文で書いている。

③ 二十字以上、三十字以内で書いている。

○ 書き出しの言葉である、「七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、」は、【取材した内容の一部】の①と②の内容をまとめたものである。そのことを踏まえて、解答には、【取材した内容の一部】の③と④の内容を条件に合わせてまとめる必要がある。

○ 【取材した内容の一部】の③と④の内容は、主語がどちらも「第三小の合唱部は」であり、リードの書き出しの主語である「本校合唱部が」と重複するため省略する。さら

に、③の中の「そのコンクール」は、「合唱コンクールの県大会」を指しており、これも重複するため省略する。

○ 【取材した内容の一部】の③の中の「金賞」、同じく④の中の「全国大会に出場する」という言葉に触れて解答しているものを正答とする。④の中の「来月開かれる」は、内容の中心的事柄ではないと判断できるため、触れていなくても正答とする。

(2) 誤答について

■解説

○ 【取材した内容の一部】の③と④の内容をまとめていないものは誤答とする。また、書き出しに続けて一文にして書いていないもの、示された字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。次のようなものは誤答となる。

・ (七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、)以下、この書き出しの言葉は省略する。)金賞に選ばれた。来月開かれる全国大会に出場することになった。(三十字)

↓右記の例は、二文で書いている。この例は、解答類型3にあたる。

・ 賞をとったので、来月の全国大会に出場することになった。(二十七字)

↓右記の例は、【取材した内容の一部】の③の中の「金賞」に触れて解答していない。この例は、解答類型9にあたる。

3 学習指導に当たって

(1) 調べたことなどを基に新聞を書く

調べたことなどを基に新聞を書くときには、相手や目的に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを様々な工夫することが大切である。例えば、題材としては、自分が経験したことや身の回りで起きた出来事、学習した内容などを取り上げることが考えられる。それらを基に新聞を書くためには、紹介や案内、報告などの複数の種類の文章を編集し、割り付けを工夫した上で、効果的な見出しを付けたり、読者に分かりやすい記事を書いたりすることができるよう指導することが大切である。

(2) 文の論理を考えて書く

目的や意図に応じて、伝えたい内容を明確に伝えるためには、文の論理を考えながら、一文一文が的確につながるように書くことが重要である。そのためには、主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を的確に押さえ、重文や複文についての理解が深まるように指導することが大切である。また、事実と意見の関係、理由や根拠と結論の関係などを的確に押さえることも大切である。とりわけ、一文が長くなる場合においては、適切な接続語を使って二文に分けるなどして、簡潔に書くことができるように指導することが大切である。

このことに関連して、平成二十二年度の授業アイデア例「調査報告文を書くために、必要となる複数の文を一文に要約すること」で、文と文との意味のつながりに注意する」において、授業の具体的な進め方を例示している。(※参考②)

(※参考①) 過去の全国学力・学習状況調査との関連

設問番号 H22 A 4	設問の概要 メモを基にして、児童会だよりの中に入る適切な内容を書く	正答率(%) 六〇・六
-----------------------	--	--------------------

(※参考②) 授業アイデア例との関連

【平成22年度「国語A」4「文の論理を考えて書く」】

調査報告文を書くために、必要となる複数の文を一文に要約することで、文と文との意味のつながりに注意する。

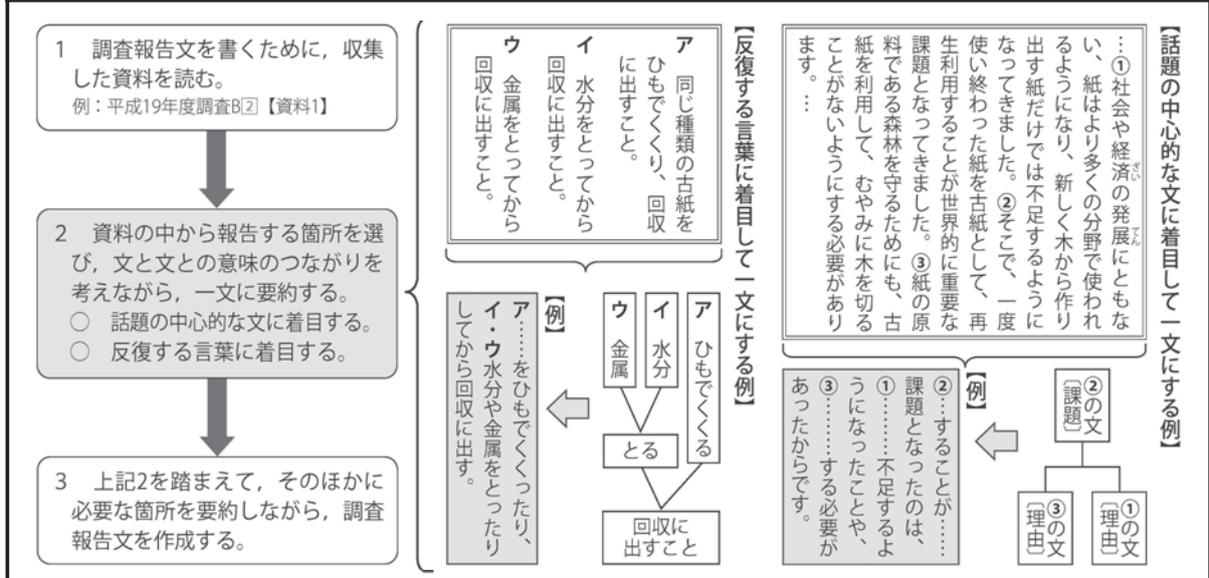
■学習指導要領（平成10年告示）における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

〔第3学年及び第4学年〕 言語事項

(1)オ(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。



8

吉田さんの学級では、「慣用句」について学習しました。「慣用句」とは、二つ以上の言葉が組み合わさって、ひとまとまりの意味を表す言葉です。吉田さんは、「話」という言葉を用いた慣用句の意味と、その使い方をカードに書いています。□の中に入る（話がはずむ）の意味として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

〔吉田さんが書いたカード〕

<p>（話が合う）</p> <p>◆意味：話題などが合い、打ち解けて話すことができる。</p> <p>◆使い方：親友とは好みが同じで、話が合う。</p>	<p>（話がはずむ）</p> <p>◆意味：</p> <p>◆使い方：友達と久しぶりに会い、話がはずむ。</p>
--	--

- 1 相手が内容を理解し、短い時間で結論が出る。
- 2 話のやりとりが、次から次へと調子よく続く。
- 3 物事の事情やすじ道、理由について理解がある。
- 4 話し合いや相談がまとまって、物事が解決する。

1 出題の趣旨

日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解することができかどうかをみる。

日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を適切に捉える問題である。

ここでは、「話」という語を用いた慣用句の中から「話がはずむ」を取り上げた。「話」と「はずむ」の二つの語の意味やカードに書かれた使い方の例文を基にして、「話がはずむ」の意味を適切に捉えることが求められる。

慣用句は、二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すものである。言語生活を豊かにするために、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を正しく理解し、日常生活において適切に用いることは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（第三・四学年）

- (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項
 - (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

選択肢2 話のやりとりが、次から次へと調子よく続く。

■解説

○ 「話はずむ」の中の「はずむ」の意味は、「いきいきとする」、「調子づく」、「勢いづく」などである。その「はずむ」と「話」とを結び付け、複数の人々の会話の様子を連想しながら意味を捉える必要がある。あわせて、カードに書かれた使い方の例文を基にして、文脈の中で意味を適切に捉える必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ 選択肢1 ↓ 「話が早い」という慣用句にあたるので誤答である。

○ 選択肢3 ↓ 「話が分かる」という慣用句にあたるので誤答である。

○ 選択肢4 ↓ 「話がつく」という慣用句にあたるので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 慣用句の意味や使い方を正しく理解する

慣用句の意味や使い方を正しく理解し、言語生活を豊かなものにするのが重要である。そのためには、様々な慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べることに加え、本や文章を読んで、その中に使われている慣用句を探して一覧表にまとめるなどの具体的な活動を通して指導することが大切である。その際、「体の部分に関する語が入っているもの」、「動物名が入っているもの」、「数字が入っているもの」などの種類に分けて指導することが考えられる。

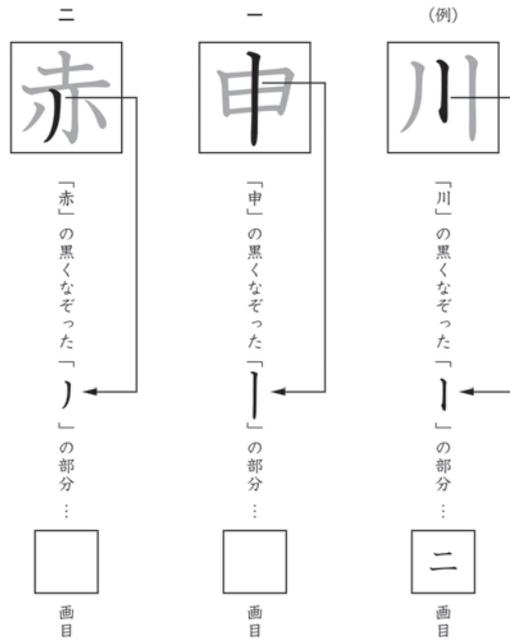
(2) ことわざや慣用句、故事成語を自分の表現に用いる

長く使われてきたことわざや慣用句、故事成語などを自分の表現に用いるようにすることが重要である。そのためには、それらが実際に使われている場面を取り出し、文脈に合わせた使い方を理解するとともに、短文にまとめるなどして収集し、それらをスピーチや説明的な文章を書くときなどに用いることができるように指導することが大切である。

なお、慣用句は、相手や場によって失礼にあたる場合があるため、配慮して用いることを指導する必要がある。

9 漢字を筆順に従って書く

9 北村さんは、漢字を書くとき、筆順に従って正しく書くようにしています。例のように、「申」と「赤」の黒くなぞった点画が何画目になるかをそれぞれ書きましょう。



1 出題の趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書くことができるかどうかをみる。

学年別漢字配当表に示されている漢字の正しい筆順を適切に捉える問題である。

ここでは、既習の漢字の正しい筆順について、その理解の状況をみるために、「申」（第三学年）と「赤」（第一学年）を取り上げた。漢字を構成する点画の形状や点画相互の位置関係を理解しながら、正しい筆順で書くことが求められる。

なお、筆順については、文部省『筆順指導の手びき』（昭和三十三年三月 博文堂出版株式会社）における大原則や原則などに基づくこととした。筆順は、書き進む際の合理的な順序が習慣化したものであり、それを正しく理解することは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（第一・二学年）

(2) 書写に関する事項

イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

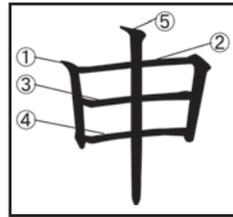
(1) 正答について

■正答

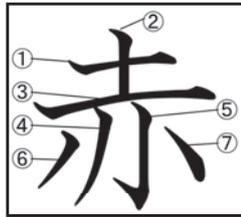
- 一 五(画目)
- 二 四(画目)

■解説

○ 「申」の漢字の筆順については、「つらぬく縦画は最後」という原則に従う必要がある。「申」以外には、「中」や「半」などがこの原則に当てはまる。「申」の筆順は、下のおりである。



○ 「赤」の漢字の筆順については、「中がさき」という原則に従う必要がある。「赤」以外には、「小」、「水」などがこの原則に当てはまる。ただし、「卜」、「火」については、例外となっている。「赤」の筆順は、下のおりである。



(2) 誤答について

■解説

○ 一に五(画目)、二に四(画目)と解答していないものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 筆順の原則を理解する

前述の『筆順指導の手びき』においては、筆順について大原則と原則が示されている。その中には、「上から下へ」、「左から右へ」、「横画がさき」などがある。学校教育で指導する筆順は、一般に通用している常識的なものである。これらを理解し、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しい筆順で書くことが重要である。そのためには、原則をただ暗記するのではなく、個々の漢字と結び付けながら理解できるように指導することが大切である。また、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活の中でも、正しい筆順に従って書くことができるようにすることが重要である。

(2) 毛筆の学習を生かして正しい筆順で書く

筆順に従って漢字を正しく書くためには、毛筆の学習を生かすことが重要である。そのためには、第三・四学年、第五・六学年の書写に関する事項を踏まえることが必要である。

なお、小学校学習指導要領国語(平成二十年告示)〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、書写に関する事項として、次のものを設定している。

- ・点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。(第三・四学年)
- ・毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。(第五・六学年)

これらの事項を踏まえ、筆順については、毛筆の学習を生かして、正しい筆順で書くことができるように指導することが大切である。

調査問題の解説

B 主として「活用」に関する問題

依頼の手紙を書く（動物園への訪問）

1 中央小学校の平川さんの学級では、働くことの大切さについて発表し合うことになりました。平川さんのグループでは、先月、学級に招いた「かがやきの森動物園」の園長の宮本さんにあらためて話を聞くことにしました。次は、代表の平川さんが「手紙の構成」をもとにしながら書いて、動物園への訪問をお願いします。「手紙の下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【手紙の構成】

■前文
（はじめのあいさつ）
季節の言葉や自分のしょうかいなど

■本文
（中たなをのぞく）
手紙を出す理由やお願いする内容など

【手紙の下書き】

木々の緑が美しい季節となりました。先日はおかげさまで、わざわ中央小学校までおこしいただき、ありがとうございました。わたしは、その時、学級を代表してお礼の言葉を申し上げた、六年一組の平川春美です。その後、お元気でいらっしゃいますか。
今日は、宮本さんにお願いがあり、手紙を書きました。たん任の前田先生から事前に連絡を申し上げたかと思いますが、わたしたちの学級では、働くことの大切さについて調べたことをグループごとに発表し合うことになりました。そこで、わたしたちのグループでは、動物と関わる仕事について詳しく調べて発表しようと考えました。
つきましては、

そのために一度、宮本さんの職場にうかがわせていただくことはできないでしょうか。勝手なお願いで大変申しわけありませんが、ほう問ができるかどうか、お返事をいただければと思います。
お返事には、

お返事の内容を確かめさせていただき、こちらへかがう日時について、できるだけ早くお電話を差し上げよういたします。
ご迷惑をおかけしますが、ご協力をいただけますよう、どうかよろしくお願いたします。これからもお体に気をつけてお過ごしください。

■後付け
（手紙の最後に付ける内容）
名前や日付など

ウ

ア

イ

B

一 平川さんは、「手紙の下書き」の本文の一部に、宮本さんに教えてもらいたい具体的な内容を書こうとしています。Aの中に入る内容として最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 先日、宮本さんが話してくださった動物園の仕事について、わたしたちだけでなく、地域のみなさんにも知ってほしいと考えました。
- 2 動物園の仕事をはじめられたきっかけ、動物と関わる仕事の喜びや苦労などについて、くわしくお話をしていただきたいと思います。
- 3 先日の宮本さんのお話やこれまで調べたことをもとにして、分かりやすい発表になるよう、グループで力を合わせて準備を進めています。
- 4 宮本さんのお話をお聞きして、かがやきの森動物園にいる動物の種類や名前、それらの持ちようなどがとてもよく分かりました。

二 平川さんは、本文のBの中に、宮本さんからのようにして返事をもらうかということについて書こうとしています。次の「平川さんが書いたメモ」の内容をもとに、あとの条件に合わせて書きましょう。

【平川さんが書いたメモ】

●返事のもらい方：ふうどうの中のはがきを返事に使ってもらおう。
●返事の内容 …ほう問ができる場合↓六月の土曜日か日曜日で、宮本さんのつうがよい日時をはがきに書いてもらう。

（条件）

- 敬語（相手に敬意を表す言葉）を用いて書くこと。
- 「お返事には」に続くように、六十字以上、八十字以内にとめて書くこと。

※左の返信用紙は下書き用のため、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※の印から書きましょう。どちらの行を交わらないで、続けて書きましょう。

80字 60字

三 平川さんは、手紙の後付けを書こうとしています。「手紙の下書き」のA・イ・ウの中、どのような内容を書くかよいですか。次の1から3までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 中央小学校 六年一組 平川 春美
- 2 かがやきの森動物園 園長 宮本 真一様
- 3 平成二十四年五月七日

1 出題の趣旨

目的や意図に応じ、書く事柄を整理し文章を構成するとともに、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書くことができるかどうかをみる。

依頼の目的や意図に応じ、手紙の構成に基づいて書く事柄を整理し、適切に敬語を使いながら、内容の中心が明確になるように手紙を書く問題である。

ここでは、動物園への訪問を依頼する手紙を書く場面を設定した。依頼の手紙を送ることにした経緯や依頼する具体的な内容を明確にすることが求められる。また、依頼に対する返事の仕方と内容について、適切に敬語を使いながら書くことも求められる。さらに、後付けにおける日付や署名、宛て名の位置関係といった手紙の基本的な形式などを押さえることが求められる。

実用的な文章としての手紙を書くことは、学校の教育活動の中においても重要である。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にし、相手に応じて適切に敬語を使いながら書くことは重要である。

■学習指導要領の言語活動例との関連

B 書くこと(第三・四学年)

エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

2 各設問の趣旨及び正答等

設問一

(1) 趣旨

目的や意図に応じ、書く事柄を整理することができるかどうかをみる。

目的や意図に応じ、依頼する具体的な内容として適切なものを選択する問題である。

本設問は、手紙の本文の中に、依頼の手紙を出す理由を踏まえた上で、依頼する具体的な内容を書く場面を設定した。依頼する側の平川さんのグループが置かれている状況を捉え、先方に対して何を求めているのかを的確に捉えることが求められる。

依頼の手紙を書く際には、手紙を送ることにした経緯や依頼する具体的な内容を明確にする必要がある。手紙の構成を押さえた上で、目的や意図に応じ、文章全体を見通して事柄を整理することは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

B 書くこと(第五・六学年)

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

■評価の観点

書く能力

(2) 正答について

■正答

選択肢2 動物園の仕事をはじめられたきっかけ、動物と関わる仕事の喜びやご苦労などについて、くわしくお話をしていただきたいと思えます。

■解説

○ 手紙の本文には、手紙を送ることになった経緯や理由、依頼する具体的な内容など、手紙の中心となる内容を書く必要がある。
A の前後をみると、働くことの大切さについて発表し合うことにしたという経緯や、動物と関わる仕事について発表しようと考えた理由、職場に伺いたいという意向が書かれている。しかし、先方に何を依頼したいのかということについては書かれていない。したがって、A には、依頼の具体的な内容を入れる必要がある。

(3) 誤答について

■解説

- 選択肢1 ↓ 「地域のみなさんにも知ってほしい」といった内容を中心とした意見であるので誤答である。
- 選択肢3 ↓ 「準備を進めています」といった内容を中心とした報告であるので誤答である。
- 選択肢4 ↓ 「とてもよく分かりました」といった内容を中心とした感想であるので誤答である。

設問二

(1) 趣旨

目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書くことができるかどうかをみる。

目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する問題である。

本設問は、手紙の本文の中に、先方に求める返事の仕方と内容を伝えるように書く場面を設定した。【平川さんが書いたメモ】の中の「返事のもらい方」と「返事の内容」に書かれている内容を押さえた上で、適切に敬語を使いながら記述することが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成十九年度の「国語B」(4)「情報を読み取る(お客様感謝セールスのちらし)」設問(二)において、相手の立場を考えて、文章や内容を客観的に評価し、よりよい表現になるように推敲する問題を取り上げている。(※参考①)また、平成二十三年調査として実施予定であった調査問題との関連をみると、「国語A」(9)「敬体と常体との違いに注意して書く」において、敬体と常体との違いに注意し、お礼の手紙の下書きを書き直す説明として適切なものを選択する問題を取り上げている。(※参考②)

依頼の手紙を書く際、先方に求める返事の仕方と内容を適切に敬語を使って書くことは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

- B 書くこと(第三・四学年)
- エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
- B 書くこと(第五・六学年)
- ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（第五・六学年）

- (1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
(ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度
書く能力
言語についての知識・理解・技能

(2) 正答について

■正答例

○ (お返事には) ふうとうの中のはがきをお使いください。もし、ほう問させていただけの場合は、六月の土曜日から日曜日で、宮本さんのごつごうがよい日時をそのはがきにお書きください。(七十八字)

■解説

○ 先方からどのように返事をもらうかを書くためには、【平川さんが書いたメモ】の「返事のもらい方」と「返事の内容」を基にする必要がある。さらに、適切に敬語を使いながら、六十字以上、八十字以内にまとめて書く必要がある。正答の条件は、次の三つとする。

- ① 【平川さんが書いたメモ】の「返事のもらい方」と「返事の内容」の二つの内容を取り上げている。
a ふうとうの中のはがきを返事に使ってもらおう。
b 訪問できる場合、六月の土曜日から日曜日で、宮本さんの都合がよい日時をはがきを書いてもらう。
② 敬語（相手に敬意を表す言葉）を用いて書いている。
③ 「お返事には、」に続くように、六十字以上、八十字以内で書いている。

○ 条件① a については、「ふうとうの中のはがき」を使うことを明確に書く必要がある。単に「はがき」だけでは、

依頼の手紙に同封したものがどうか不明確で、先方への配慮が不十分になると判断する。

条件① b については、「六月の土曜日から日曜日」や「つごうがよい日時」といったメモの重要な内容を的確に取り出す必要がある。

○ 条件② については、【平川さんが書いたメモ】の内容を適切に敬語を使って書く必要がある。文末には、「お使いください」や「使ってください」、「書いてください」や「お書きください」などの敬意表現を用いる必要がある。また、「ほう問させていただけの場合は」や「ごつごう」といった敬意表現も合わせて用いることが望ましい。

○ 条件① a・b、②、③を満たしているものうち、次のようなものは正答となる。

【条件① a・b を一文にまとめている場合】

・ (お返事には、) 以下、この書き出しの言葉は省略する。
ふうとうの中のはがきを使ってもらうことにし、わたしたちがほう問させていただけの場合は、六月の土曜日から日曜日で、宮本さんのごつごうがよい日時をお書きください。(七十七字)

↓右記の例は、「(私があなたに) : :」してもらうことにし、(あなたが) お書きください」という内容になっている。一文の中の主語が整っていないが、本設問では、文末の敬意表現の有無を優先して判断するため正答とする。

【条件① b の内容を分けて書いている場合】

・ ほう問させていただけの場合は、宮本さんのごつごうがよい日時をふうとうの中のはがきにお書きください。期日については、六月の土曜日から日曜日に限らせていただきます。(七十九字)

↓右記の例は、条件① a・b を満たし、条件① b 中の訪問の期日に関する内容を補足するように二文にして的確に書いている。また、敬語を適切に用いているので正答とする。

(3) 誤答について

■解説

○【平川さんが書いたメモ】にある「返事のもらい方」と

「返事の内容」の二つの内容を取り上げていないもの、あるいは、どちらか一方にしか触れていないものは誤答とする。また、敬語を適切に用いていないもの、示された字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。次のようなものは誤答となる。

- ・ふうとうの中のはがきを使って書いてもらいます。ほう問できる場合は、六月の土曜日か日曜日で宮本さんのつごうがよい日時をそのはがきに書いてほしい。(七十一字)
- ↓右記の例は、一文目の文末に敬体を用いているが、依頼する相手にはがきを使って書くことを指示するような表現になっている。また、二文目の文末は常体になっている。二つの文は、適切な敬意表現を用いていないものと判断する。この例は、解答類型3にあたる。

・ふうとうの中のはがきをお使いください。もし、ほう問させていただける場合は、ごつごうのよい日時をこちらから電話でうかがうようにします。(六十六字)

↓右記の例は、「六月の土曜日か日曜日で宮本さんのつごうがよい日時をはがきに書いてもらおう」という条件①bを取り上げていない。この例は、解答類型4にあたる。

・もし、ほう問させていただける場合は、六月の土曜日か日曜日で宮本さんのごつごうがよい日時をはがきにお書きください。(五十六字)

↓右記の例は、「ふうとうの中のはがきを使ってもらおう」という条件①aを取り上げていない。この例は、解答類型4にあたる。

設問三

(1) 趣旨

手紙の構成を理解し、後付けを書くことができるかどうかをみる。

手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する問題である。

本設問は、手紙の後付けに、日付、署名、宛て名を書く場面を設定した。日付、署名、宛て名をそれぞれ適切な位置に書くことが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十一年度の「国語A」^③「はがきを書く」において、はがきの表書きに必要な相手の住所と名前、自分の住所と名前を正しい順序で選択する問題を取り上げている。(※参考①)

手紙の後付けに必要な事柄を的確に押さえ、それらの順序や位置などに気を付けて書くことは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

B 書くこと(第五・六年)

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

■評価の観点

書く能力

(2) 正答について

■正答

- | | | |
|---|---|---------------------|
| ア | 3 | 平成二十四年五月七日 |
| イ | 1 | 中央小学校 六年一組 平川 春美 |
| ウ | 2 | かがやきの森動物園 園長 宮本 真一様 |

■解説

○ 手紙の後付けは、日付、署名、宛て名の順に記し、日付と宛て名は署名よりも上の位置に書く必要がある。後付けなどの手紙の基本的な形式については、室町時代初期ごろに書かれた文例集に基づいて、普及し定着していったものと考えられている。

(3) 誤答について

■解説

○ アに3、イに1、ウに2と解答していないものは誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 実用的な文章を書く

社会生活においては、依頼状や案内状、礼状など、実用的な文章としての手紙を書くことが求められる。その際、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にすることが重要である。手紙の目的や意図が、相手に的確に伝わるように、必要となる内容を検討したり、吟味したりするように指導することが大切である。特に、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙の基本的な構成を踏まえ、それぞれの部分に書く事柄を整理することができるように指導することが大切である。

(2) 適切に敬語を用いる

相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるように指導することが大切である。そのためには、相手と自分との関係を意識させながら、丁寧語や尊敬語、謙譲語について理解することが重要である。また、丁寧語や尊敬語、謙譲語のほかに、「お花」や「お菓子」といった美化語が日常生活の中で使われていることを理解することも大切である。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）「書くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、敬語

に関する指導事項として、以下を設定している。

- ・敬体で書かれた文章に慣れること。（第一・二学年）
 - ・文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。（第三・四学年）
 - ・日常よく使われる敬語の使い方慣れること。（第五・六学年）
- このような系統を踏まえながら、適切に敬語を用いることができるように指導することが重要である。

(3) 手書きの手紙を送る

感謝の気持ちを伝える手紙や、年賀状、暑中見舞い等のはがきを書く際には、積極的に手書きによるものを用いるようにし、そのことが児童の言語生活の中に位置付くようにすることが重要である。そのためには、手書きが、相手のことを思い、気持ちを豊かに伝えることができるなどのよさを実感できるようにすることが大切である。

一方、ICT教育の観点を踏まえると、目的や状況に応じて電子メールなどを利用して手紙を送ることも効果的である。

(※参考①) 過去の全国学力・学習状況調査との関連

設問番号	関連する過去の設問番号・設問の概要・正答率(%)
二	H19 B 4 二 客に対する勧誘の表現を適切に改めて書く 七七・二
三	H21 A 3 はがきの表書きに必要な事柄を選択する 六七・一

(※参考②) 平成二十三年度調査として実施予定であった調査問題との関連

設問番号	平成二十三年度の設問番号・設問の概要
二	H23 A 9 お礼の手紙の下書きの書き直し方を説明したものとして適切なものを選択する

立場や意図を明確にして話し合う〈中学校の部活動〉

2

六年生の白石さんの学級では、中学校での学習や生活への準備をするために、中学生にインタビューをすることにしました。インタビューは、「学習」「部活動」「学校行事」「生徒会活動」の四つに分け、グループで行います。次は、白石さんのグループが、「部活動」に関する質問の内容を話し合っている様子です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】 ※①白石(司会)・②白石(司会)・③白石(司会)の発言の内容は、問いと関係があります。

白石(司会)

- ここで一度、出された質問を順番に確かめてみます。
- 部活動には、どのようなものがあるのか。
 - 部活動は、土曜日や日曜日もあるのか。
 - それぞれの部には、何人まで入ることができるのか。
 - 人数が一番多い部は、何人いるのか。
 - 部活動は、何時から何時まで行うのか。

①白石(司会)

この五つの質問は、二つのままとりに分けられそうです。一つは「部活動の種類と人数に関する質問」で、A()・()・()・()が当てはまります。もう一つは、「部活動の曜日と時間に関する質問」で、B()・()・()が当てはまります。これらの質問はまともなそれですので、あとで整理することにします。それでいいですか。

全員

それは、質問をしたい内容を続けて出してください。

先生

この資料を見てください。これは、中学校の生徒会が、「部活動に対する満足度」について、中学一年生と中学三年生を対象に調査した結果をまとめたグラフです。質問を考える際の参考にしてください。先生、ありがとうございます。この資料をもとにすると、中学生にどんな質問ができそうですか。

②白石(司会)

あなたの発表

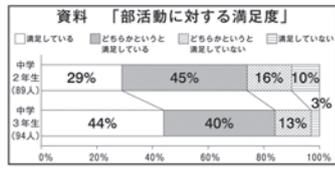
ア

③白石(司会)

これまでに多くの質問を出してもらいましたが、ここで少し考えてもらいたいことがあります。わたしたちのグループは、中学校での部活動に向けて、どのような準備をすればよいかということについて、質問をすることが大切です。この点をふまえて、さらに質問の内容を考えてみてください。

竹中

「部活動を決めるのは、入学してすぐなのか。いつまでに決めなければならないのか」と質問をしたいです。その理由は、(中略)からです。(話し合いが続く)



①白石(司会)さんは、これまでに出了れた五つの質問を二つのままとりに分けています。【話し合いの様子】の中の1から5までの質問を、Aに三つ、Bに二つに分けるように分け、その番号を書きましょう。

部活動の種類と人数に関する質問 … A ()・()・()

部活動の曜日と時間に関する質問 … B ()・()・()

②白石(司会)さんは、グループの人たちに、資料「部活動に対する満足度」をもとにして、中学生に対する質問を出してもらおうとしています。あなたなら、(ア)のところでのような質問を考えて発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 資料の中の中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べてちがうこと、あるいは両方に共通していることを取り上げて、質問をしたいことをはっきりと書くこと。(割合については、「%」と表記してもよい。)
- 六十字以上、百字以内にとめて、発表するように書くこと。

※元の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。※の印から書きましょう。ちがうようで行を突えないで、続けて書きましょう。

100字 60字

③白石(司会)さんの ———— 部の発言は、どのようなねらいをもっていますか。その説明として最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 立場のちがう人の発言を求め、公平な話し合いにしようとしている。
- たがいの考えのちがいを比べて、一つの考えにまよめようとしている。
- 話し合いの目的を確かめ、それに合わせた発言を求めようとしている。
- これまでに出了れた考えをままとりに整理しようとしている。

1 出題の趣旨

立場や意図を明確にし、情報を整理したり、資料を読み取ったりしながら、計画的に話し合うことができるかどうかをみる。

司会や参加者の立場や意図を明確にし、収集した情報を整理したり、提示された資料を読み取ったりしながら、目的に応じて計画的に話し合う問題である。

ここでは、中学校での学習や生活への準備として、中学生にインタビューをする際の質問の内容を決めることを目的とした話し合いの場面を設定した。司会としては、収集した情報をまとまりごとに整理したり、目的に応じた発言を促したりしながら話し合いを計画的に進めていくことが求められる。参加者としては、提示された資料を読み取った上で、中学生に対して質問をしたい内容を考えて、発表することが求められる。

司会や参加者などの立場や役割を全員が理解し、目的に応じて、情報を整理しながら、効率的かつ協同的に進行できるように能力や態度を育成することは重要である。

■学習指導要領の言語活動例との関連

A 話すこと・聞くこと（第三・四学年）

イ 学級全体で話し合っただけで考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。

2 各設問の趣旨及び正答等

設問一

(1) 趣旨

司会として収集した情報を捉え、まとまりごとに整理することができるかどうかをみる。

参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理する問題である。

本設問は、参加者から出された質問を「部活動の種類と人数に関する質問」と「部活動の曜日と時間に関する質問」の二つのまとまりに整理する場面を設定した。出された質問の内容を適切に捉え、それぞれのまとまりに示されている観点到即して整理することが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成十九年度の「国語B」**①**「話し合いを計画的に進める（交流計画の司会）」設問一）において、司会者として提案の内容をよく聞き、それらを聞き分け、整理する問題を取り上げている。また、平成二十一年度の「国語B」**②**「表をもとに話し合う（家の中のそうじや整とん）」設問一）において、出された意見を整理して、どの立場や意図であるかを選択する問題を取り上げている。（※参考**①**）

司会として、収集した情報を整理し関連があるものをまとまりごとに整理しながら、話し合いを効率的に進めることは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと（第五・六学年）

ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報に関係付けること。

■評価の観点
話す・聞く能力

(2) 正答について

■正答

A 1・3・4

B 2・5

※A・Bそれぞれの解答の順序は問わない。

■解説

○ 1、2、3、4、5の全てを正しく解答する必要がある。

○ 1の質問の中の「どのようなもの」は、種類の観点になる。3の質問の中の「何人まで」は、人数の観点になる。また、4の質問の中の「人数が一番多い」や「何人」は、人数の観点になる。したがって、1、3、4の質問は、Aの「部活動の種類と人数に関する質問」のまとまりに整理する必要がある。

○ 2の質問の中の「土曜日と日曜日」は、曜日の観点になる。5の質問の中の「何時から何時まで」は、時間の観点になる。したがって、2、5の質問は、Bの「部活動の日と時間に関する質問」のまとまりに整理する必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○ 「部活動の種類と人数に関する質問」と「部活動の日と時間に関する質問」のそれぞれのまとまりの観点に即して質問の内容を整理していないものは誤答である。

設問二

(1) 趣旨

資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表することができるかどうかをみる。

提示された資料を読み取った上で、相手に対して質問をしたい内容を明確にして発表するように記述する問題である。

本設問は、先生から提示された「資料『部活動に対する満足度』」の内容を読み取った上で、中学生に対して質問をしたい内容を発表する場面を設定した。中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べて違うこと、あるいは両方に共通していることを取り上げ、質問の形式にして発表するように記述することが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十年度の「国語A」(7)「分かったことをメモに取る」において、グラフから分かったことをメモに取る問題を取り上げている。また、平成二十一年度の「国語B」(2)「表をもとに話し合う(家の中のそうじや整理とん)」設問二)において、話し合いの流れを踏まえ、自分の立場や意図を明確にして発表する問題を取り上げている。(※参考①)

話し合いにおいては、自分の経験のみならず、客観的な事実を基にして考えを広げたり、深めたりすることも大切である。その際、根拠となる理由や事例に加え、必要な数値を引用しながら考えを述べることが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと(第五・六学年)

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

B 書くこと(第五・六学年)

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度
話す・聞く能力
書く能力

(2) 正答について

■正答例

○ 「満足している」の割合をみると、中学二年生の二十九%に対して、中学三年生はそれより十五%も高くなっています。そのことから、中学三年生に「どのような理由で満足度が高くなるのですか。」と質問をしたいと思います。(百字)

■解説

○ 資料の中の中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に触れ、「比べて違うこと」、あるいは「両方に共通していること」のどちらか一方を取り上げる必要がある。さらに、質問をしたい内容を中学生に明確に伝わるような記述形式にして、六十字以上、百字以内にまとめて書く必要がある。正答の条件は、次の二つとする。

① 中学生に対して質問をしたい内容と質問の記述形式の二つを満たしている。

a 質問をしたい内容として、資料の中の中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に触れ、「比べて違うこと」、あるいは「両方に共通していること」を取り上げている。

b 質問をしたい内容を中学生に明確に伝わるような記述形式にして書いている。

② 六十字以上、百字以内で書いている。

○ 条件①aについては、割合の数値を用いて解答することが望ましい。ただし、「中学二年生よりも中学三年生のほうが部活動に満足している」や「『満足している』と『ど

ちらかという満足している』の割合を合わせると、中学二年生と中学三年生のどちらも割合が高い」などは、割合の数値は用いていないが、資料の内容を適切に捉えていると判断できるため、条件①aを満たすものとする。

○ 条件①bについては、質問をしたい内容を中学生に明確に伝わるように「なぜ、くですか」、「く」と質問をしたい」などの記述形式にする必要がある。質問をする対象は、中学二年生か中学三年生のいずれか、あるいは中学二年生と中学三年生の両学年かを明記することが望ましい。中学生以外が対象であると限定して判断できる場合を除き、質問をする対象が不明確であっても好意的に判断する。

○ 条件①a・b、②を満たしているもののうち、次のようなものは正答となる。

・「条件①aにおいて、割合の数値を用いている場合」

・「満足していない」の割合をみると、中学三年生の三%に対して、中学二年生は十%で七%も高くなっています。そのことから、中学二年生に「中学三年生よりも満足度が低いのはなぜですか。」と質問をしたいと思います。(九十八字)
↓右記の例は、中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べて違うことを取り上げ、数値を用いて書いている。
この例は、解答類型1にあたる。

・「満足している」と「どちらかという満足している」の割合を合わせると、中学二年生も中学三年生も七十%以上です。そのことから、両学年に「部活動のどんなところに満足しているのですか。」と質問をしたいと思います。(百字)
↓右記の例は、中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に共通していることを取り上げ、数値を用いて書いている。この例は、解答類型1にあたる。

〔条件①aにおいて、割合の数値を用いていない場合〕

・「満足している」の割合をみると、中学二年生よりも中学三年生のほうが高くなっています。そのことから、中学三年生に「中学二年生よりも満足度が高くなるのはなぜですか。」と質問をしたいと思います。(九十一字)

↓右記の例は、割合の数値を用いていないが、中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べて違うことを的確に取り上げて書いている。この例は、解答類型2にあたる。

・「満足している」と「どちらか」と満足している」の割合を合わせると、中学二年生も中学三年生も満足度が高いといえます。そのことから、両学年に「満足している理由は何ですか。」と質問をしたいと思います。(九十六字)

↓右記の例は、割合の数値を用いていないが、中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に共通していることを的確に取り上げて書いている。この例は、解答類型2にあたる。

(3) 誤答について

■解説

○ 資料の中の中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に触れていないものは誤答とする。また、質問をしたい内容を中学生に明確に伝わるような記述形式にしていないもの、示された字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。次のようなものは誤答となる。

〔条件①aは満たしているが、条件①bは満たしていない場合〕

・「満足している」と「どちらか」と満足している」の割合を合わせると、中学二年生が七十四%、中学三年

生が八十四%になります。中学三年生の割合のほうが十%も高くなっていることが分かりました。(九十五字)

↓右記の例は、資料の内容を的確に捉え、割合の数値を用いているが、それを自分が分かったこととして書いているだけで、質問をしたい内容を中学生に明確に伝えるような記述形式にしていない。この例は、解答類型4にあたる。

〔条件①bは満たしているが、条件①aは満たしていない場合〕

・中学三年生の「満足している」と「どちらか」と満足している」の割合を合わせると、八十四%もあります。そのことから、中学三年生に「部活動に入ってどんなところがよかったですか。」と質問をしたいと思います。(九十九字)

↓右記の例は、質問をしたい内容を中学三年生に明確に伝えるような記述形式にしているが、中学二年生の割合は取り上げていない。この例は、解答類型4にあたる。

・「満足していない」の割合は、中学二年生が三%、中学三年生が十%です。そのことから、満足していない人たちに「どのようなところに満足できないのですか。」と質問をしたいと思います。(八十四字)

↓右記の例は、質問をしたい内容を中学生に明確に伝えるような記述形式にしているが、「満足していない」の割合は、実際には中学二年生が十%、中学三年生が三%であり、事実を誤って捉えている。この例は、解答類型4にあたる。

設問三

(1) 趣旨

司会として話合いの目的を再確認し、計画的に話合いを進めることができるかどうかをみる。

話合いの目的を再確認し、計画的に話合いを進めようとする司会の役割を適切に説明したものを選択する問題である。

本設問は、司会が中学校での学習や生活への準備として、中学生に質問をするという話合いの目的を再確認し、参加者に発言を求め場面を設定した。目的に応じた発言を促している司会の発言の狙いを適切に捉えることが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十一年度の「国語A」(7)「話し合いを計画的に進める」において、話し合いの中で、目的や流れに沿って出された意見を整理したり、次の議事へ進行したりする司会の役割や働きを捉える問題を取り上げている。(※参考①) また、平成二十三年度調査として実施予定であった調査問題との関連をみると、「国語B」(1)「目的や意図に応じて計画的に話し合う〈学級の旗〉」設問(2)において、司会の発言の意図を説明したものととして適切なものを選択する問題を取り上げている。(※参考②)

司会の役割を理解し、話し合いが目的に即したものであるかを判断しながら、的確な発言を促すなどして、計画的に話し合いを進めることは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

- A 話すこと・聞くこと(第五・六学年)
- オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

■評価の観点
話す・聞く能力

(2) 正答について

■正答

- 選択肢3 話し合いの目的を確かめ、それに合わせた発言を求めようとしている。

■解説

○ ③白石(司会)さんの発言の冒頭に、「これまでに多くの質問を出してもらいましたが、ここで少し考えてもらいたいことがあります」とある。これは、話し合いの状況を踏まえ、軌道修正をしようとするものである。③白石(司会)さんの発言の中の「…ということについて、質問をすることが大切です」や「さらに…考えてみてください」は、学級全体での話し合いの目的を再確認し、その目的に応じた発言を促そうとする狙いがあることを捉える必要がある。

(3) 誤答について

■解説

- 選択肢1 ↓ ③白石(司会)さんの発言は、立場の違う人の発言を求めようとする狙いはないと判断できるので誤答である。
- 選択肢2 ↓ ③白石(司会)さんの発言は、互いの考えの違いを比べて、一つの考えにまとめようとする狙いはないと判断できるので誤答である。
- 選択肢4 ↓ ①白石(司会)さんの発言は、まとめりとともに整理しようとする狙いがあるが、③白石(司会)さんの発言は、そのような狙いはないと判断できるので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 司会や参加者の役割を果たす

司会や参加者の役割を理解し、児童一人一人がそれらの役割を遂行することが重要である。そのためには、司会としては、進行表に沿って進行することを学び、徐々に、話し合いが目的に応じて適切に進行するように、提案者や参加者の発言を整理したり、促したり、まとめたりするなどの具体的な場面に合わせて指導することが重要である。参加者としては、進行に合わせながら、積極的に自分の考えを発言し、話し合いに参画するように指導することが大切である。

このことに関連して、平成二十三年度の全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例「協議と討論における司会として様々な状況に対応しながら、話し合いをよりよい方向に導く」において、授業の具体的な進め方を例示している。(※参考③)

(2) 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話し合う

目的に応じて、図表や絵、写真などの資料を取り上げ、そこから読み取ったことを基にして話したり、聞いたりすることが重要である。図については、分類や組織、構成や関係、手順や過程などが端的に表されたものを取り上げるようにすることが大切である。また、表やグラフについては、変化や傾向、順位、時間の経過などを捉えたり、全体の構成要素を概観したりするのに役立つものであり、多様な表現方法を用いたものを取り上げるようにすることが大切である。

このことに関連して、平成二十一年度の授業アイデア例「資料や数値を根拠にして考えたことを話し合う」において、授業の具体的な進め方を例示している。(※参考④)

(※参考①) 過去の全国学力・学習状況調査との関連

設問番号	一	二	三
関連する過去の設問番号・設問の概要・正答率(%)	H19 B1 話し合いの内容を整理した司会者の発言を書く 六三・一	H20 A7 グラフから分かったことをメモに取る 四七・八	H21 A7 「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する 二五・九
	H21 B2 話し合いの中で出された意見を二つの立場に分ける 七五・六		H21 A7 司会の進め方の良いところを説明する 六八・二

(※参考②) 平成二十三年度調査として実施予定であった調査問題との関連

設問番号	三
平成二十三年度の設問番号・設問の概要	H23 B1 司会の発言の意図を説明したものと適切なものを選択する

(※参考③) 授業アイデア例との関連

【平成23年度「国語B」1「目的や意図に応じて計画的に話し合う〈学級の旗〉】

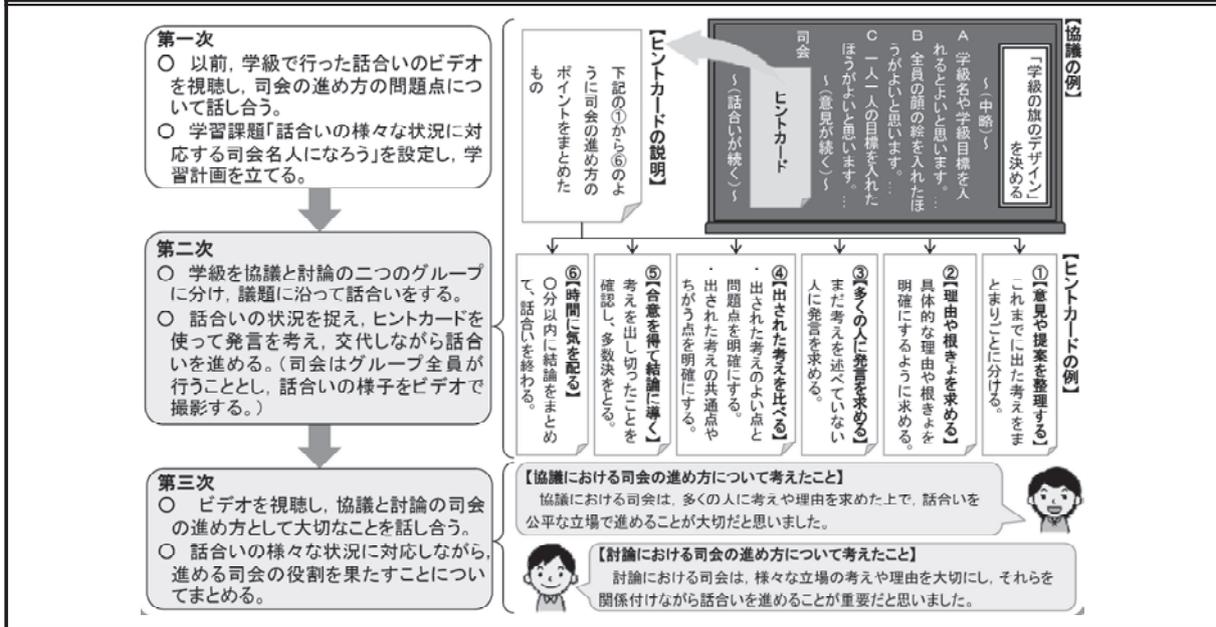
協議と討論における司会として様々な状況に対応しながら、話し合いをよりよい方向に導く。

■ 学習指導要領（平成10年告示）における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。



(※参考④) 授業アイデア例との関連

【平成21年度「国語B」2「表をもとに話し合う〈家の中のそうじや整とん〉】

資料や数値を根拠にして考えたことを話し合う。

■ 学習指導要領（平成10年告示）における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

■ 学級で協議するテーマや議題に応じて、必要な図表やグラフなどの資料を集める。

資料(例)：国語は乱れていると思うか

文化庁『平成19年度国語に関する世論調査』による

乱れていると思う(計)		乱れていないと思う(計)		分からない
79.5%【80.4%】		16.2%【17.0%】		
非常に乱れている 20.2%【24.4%】	ある程度乱れている 59.3%【56.0%】	余り乱れていない 15.1%【15.8%】	全く乱れていない 1.1%【1.2%】	

【 】の割合は平成14年度調査結果

■ 4～6人のグループになり、資料から分かったことや考えたことを話し合う。

■ グループで話し合ったことを発表し、数値の用い方や根拠の明確さなどについて全体で話し合う。

※ 教師は、下の発問①のように多面的な思考を促したり、発問②のように根拠が不十分な考えを提示して思考を揺さぶったりする。

【発問①】 「国語は乱れている」という立場から意見をまとめるとすると、根拠をいくつか示すことができますか。



教師

【発問②】 「平成19年度に国語が乱れていないと思う人がいるのは、言葉に興味をもっていない人が増えたからです」という意見は、表の中のどの数値を根拠にしていますか。

3 陸上クラブの金子さんは、長い距離を速く走ることを目標にしています。そこで、子ども向けの雑誌の中から陸上競技について書かれた記事を探して読みました。次の「月刊『未来へはばたく小学生』」の「一部」を読んで、あとの問いに答えましょう。

月刊「未来へはばたく小学生」の一部

特集
マラソン 第1回

マラソンは、長い距離を速く走ることを目標にしています。そこで、子ども向けの雑誌の中から陸上競技について書かれた記事を探して読みました。次の「月刊『未来へはばたく小学生』」の「一部」を読んで、あとの問いに答えましょう。

男子マラソンのスタート直後の写真

マラソンの距離は、なんと42.195km(26.2マイル)です。マラソンは、長い距離を速く走ることを目標にしています。そこで、子ども向けの雑誌の中から陸上競技について書かれた記事を探して読みました。次の「月刊『未来へはばたく小学生』」の「一部」を読んで、あとの問いに答えましょう。

(各回の主な内容)
【世界のトップランナー】
 ・何km(キロメートル)走るの？ (15ページ)
 ・トップランナーの走るスピードは… (16ページ)
 ・トップランナーの練習法 (17-18ページ)
【日本人選手】
 ・マラソンが人気！ 走る市民ランナーたち (19ページ)
 ・あなたも長い距離を走ってみよう！ (20ページ)

マラソンの距離は、なんと42.195km(26.2マイル)です。マラソンは、長い距離を速く走ることを目標にしています。そこで、子ども向けの雑誌の中から陸上競技について書かれた記事を探して読みました。次の「月刊『未来へはばたく小学生』」の「一部」を読んで、あとの問いに答えましょう。

特集 — マラソン — 第1回 (4月号) 世界のトップランナー

トップランナーの走るスピードは…
 42.195kmをいかに速く走りぬけるかを競うマラソン。2011年7月現在、男子の世界記録は、2時間03分59秒で、ハイレ・ゲブレシラシエ選手(エチオピア)がもっている。女子の世界記録は、2時間15分25秒で、ポーラ・ラドクリフ選手(イギリス)がもっている。100mを何秒で走る計算になるかというと、男子が約17.6秒、女子が約19.3秒。この速さで走り続けるのだから、おどろきである。

(マラソンの世界記録上位5人) ▼国際陸上競技連盟の資料を参考にした。(2011年7月現在)

(男子選手)

順位	記録	選手の名前	国籍・所属	場所	年
1	2時間03分59秒	ハイレ・ゲブレシラシエ	エチオピア	ベルリン	2008
2	2時間04分27秒	ダンカン・ホバト	ケニア	ロツタルダム	2009
3	2時間04分43秒	ジェームズ・クワンハイ	ケニア	ロツタルダム	2009
4	2時間04分48秒	エマヌエル・ムタイ	ケニア	ロンドン	2011
5	2時間04分49秒	パトリック・マカウ	ケニア	ロツタルダム	2010

(女子選手)

順位	記録	選手の名前	国籍・所属	場所	年
1	2時間15分25秒	ポーラ・ラドクリフ	イギリス	ロンドン	2003
2	2時間16分47秒	キャサリン・ヌアレバ	ケニア	シカゴ	2001
3	2時間19分12秒	野口みずき	日本	ベルリン	2005
4	2時間19分19秒	イリーナ・ミキテンコ	ドイツ	ベルリン	2008
5	2時間19分19秒	メアリー・ケイタニー	ケニア	ロンドン	2011

野口みずき選手の写真

野口みずき選手

日本人選手の記録
 (男子選手) 男子の世界記録をもつのは、高岡寿成選手。2002年のシカゴマラソンで、2時間06分16秒の記録を出した。この記録は、世界第20位にあたる。(2011年7月現在)

(女子選手) 女子の世界記録を上位10人まで見ると、次の選手たちもその中に入る。

◆波井陽子選手 → 2時間19分41秒【世界第8位】(2004年 ベルリン)
 ◆高橋尚子選手 → 2時間19分46秒【世界第9位】(2001年 ベルリン)

(次ページ 読者からの質問) マラソンについての疑問をどしどしお寄せください。くわしくは別ページを…

1 金子さんは、この雑誌や読んだ記事の特徴を次のようにとらえました。アとイの文の一部には、どのような内容が入りますか。アの文の一部に入る内容としてふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。また、イの文の [] の中に入る内容としてふさわしい言葉を、記事の中からめき出ししましょう。

【この雑誌や読んだ記事の特徴】

ア この雑誌は、
 1 毎日
 2 毎週
 3 毎月
 4 二か月に一回
 発行される。

イ 今回からの特集は、「マラソン」であり、第1回で取り上げた主な内容は、 [] に注目し、走るスピードや練習法などを記事にしている。

二 金子さんは、この雑誌の中の(各回の主な内容)を読み、編集者が読者に対して、どのようなねらいをもって示そうとしたのか考えました。編集者のねらいを説明したものと最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 この特集を組むことによって、読者にいろいろなスポーツに興味をもたせようとしている。
 2 この特集は、トップランナーたちに読んでほしいという言葉を読者に伝えようとしている。
 3 この雑誌の中に、今回の特集以外に他の特集があることを読者に知らせようとしている。
 4 この特集で取り上げていく全体の内容を示し、読者に続けて読んでもらおうとしている。

三 金子さんは、マラソンの距離やその由来を陸上クラブの人たちに説明するために、記事をくり返し読むことにしました。特集の中の、どの記事とどの記事をつなげて読むとよいですか。次の二つの [] の中に入る記事の見出しを、あとの1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。(解答の順序は問いません。)

マラソンの距離やその由来について説明するためには、 [] の [] の記事と [] の [] の記事をつなげて読むとよい。

- 1 何km(キロメートル)走るの？
- 2 何km(キロメートル)走るの？
- 3 マラソンの走るスピードは…
- 4 マラソンの世界記録上位5人
- 5 日本人選手の写真

四 金子さんは、日本の女子選手と男子選手のそれぞれについて考えたことをまとめています。

「金子さんがまとめた内容」の の中には、どのような内容を書くのでしょうか。おどの条件に合わせて書きましょう。

「金子さんがまとめた内容」

日本の女子選手は、世界的に活やくしてき
たと考えられます。そのように考えた理由は、

日本の男子選手は、：

（省略）

（条件）

○ 「マラソンの世界記録上位5人」と「日本人選手の記録」の二つの記事を結び付けながら

読み、金子さんの考えの理由となる事実を、両方から取り出し、まとめて書いて書くこと。

○ 「そのように考えた理由は、」に続くように、四十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。

※左の原用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらか一つだけ行を変えないで、続けて書きましょう。

日本の女子選手は、世界的に活やくしてき
たと考えられます。そのように考えた理由は、

--	--

60字 40字

日本の男子選手は、：

（省略）

1 出題の趣旨

目的に応じて雑誌を読み、編集者の意図を捉えたり、記事を結び付けたりしながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

目的に応じ、雑誌の特徴を押さえながら読み、編集者の意図を捉えたり、記事を結び付けたりしながら、自分の考えをまとめる問題である。

ここでは、雑誌『未来へはばたく☆小学生』の陸上競技について書かれた記事の中から、特集であるマラソンの距離やトップランナーの走るスピードなどに注目して読む場面を設定した。計三回にわたる特集全体の構成や、第1回で掲載された記事の構成を押さえ、それらの特徴や編集者の意図を捉えることが求められる。また、日本の女子選手の活躍の理由となる事実を、複数の情報の中から取り出し、それらを結び付けながら、自分の考えとしてまとめることが求められる。

現代の社会では、新聞、インターネットなど、様々なメディアの情報や、学習や生活の中で活用されている。雑誌もその一つであり、社会・経済・政治・産業・国際・教育・文化・スポーツなど多岐にわたるテーマや内容に基づいて編集されている。それらの編集の仕方や、記事の内容に注意して読むことは重要である。

■学習指導要領の言語活動例との関連

C 読むこと（第五・六年年）

イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。

ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。

2 各設問の趣旨及び正答等

設問一ア・イ

(1) 趣旨

目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉えることができるかどうかをみる。

雑誌や記事の特徴の説明として適切なものを選択したり、取り出して書いたりする問題である。

本設問は、雑誌『未来へはばたく☆小学生』の刊行の頻度、特集の内容や構成の特徴を捉える場面を設定した。「月刊」という言葉の意味を理解したり、計三回にわたる特集で取り上げる〈各回の主な内容〉の中から、第1回で掲載された記事の構成や見出しに着目したりすることが求められる。

雑誌に限らず、資料の刊行時期を捉えることは、自分の課題を解決するための見通しを立て、目的をもって読むことにつながる。雑誌や特集の全体を概観したり、記事と記事との関係を押さえたりしながら、効果的に読むことは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと（第五・六学年）

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読みだりすること。

■評価の観点 読む能力

ア

(2) 正答について

■正答

選択肢3 毎月

■解説

○ 雑誌名の『未来へはばたく☆小学生』には、「月刊」という言葉が付いている。月刊とは、文字どおり、月に一回発行されるという意味を捉える必要がある。あわせて、〈各回の主な内容〉に着目し、第1回（4月号）、第2回（5月号）、第3回（6月号）と、三回（三か月間）にわたってこの特集が組まれていることも捉える必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○ 選択肢1、2、4は、この雑誌の特徴として当てはまらないので誤答である。

(2) 正答について

■正答例

- 世界のトップランナー

■解説

○ 雑誌は、複数回にわたって特集を組む際、その全体の概要を、第一回目で一覧にして示す場合がある。この雑誌の特集においては、計三回の構成であることを捉え、各回で取り上げる記事の内容について概観する必要がある。

- 今回からの特集は、マラソンであることを捉えた上で、第1回で掲載された記事の構成に注目する必要がある。第1回の大きな見出しである「世界のトップランナー」という言葉を正しく取り出して書くことが求められる。

- 「世界の」という言葉を省略し、「トップランナー」のみを解答しているものも正答とする。

(3) 誤答について

■解説

- 「トップランナー」に触れて解答しているが、「日本のトップランナー」のように、トップランナーを世界ではなく日本に限定して解答しているものは誤答とする。

- 「トップランナーのスピード」や「トップランナーの練習法」のほか、「トップランナーのひみつ」などのように、トップランナーに関わる具体的な事柄を加えて解答しているものも誤答とする。

設問二

(1) 趣旨

編集者の意図を捉えることができるかどうかをみる。

編集者の意図を説明したものとして適切なものを選択する問題である。

本設問は、雑誌の中の〈各回の主な内容〉を示した編集者の意図を捉える場面を設定した。〈各回の主な内容〉が読者に対してどのような効果をもっているのかを、編集者と読者の両方の立場から捉えることが求められる。

特集の全体を概観し、編集者の意図を捉えながら、目的に応じて読むことは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと(第五・六年)

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読んだりすること。

■評価の観点

読む能力

(2) 正答について

■正答

選択肢4 この特集で取り上げていく全体の内容を示し、読者に続けて読んでもらおうとしている。

■解説

○ 〈各回の主な内容〉では、第1回（4月号）、第2回（5月号）、第3回（6月号）で取り上げる主な内容が示されている。今月号である4月号の内容だけでなく、特集で取り上げていく全体の内容が示されることよって、次回以降についても読者の読書意欲が喚起されることが期待できる。このように、読者の立場で考え、編集者の意図を捉える必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○ 選択肢1 ↓ この特集はマラソンであり、〈各回の主な内容〉では、いろいろなスポーツについては取り上げていないと判断できるので誤答である。

○ 選択肢2 ↓ 〈各回の主な内容〉では、トップランナーたちを読者として限定しているとは判断できないので誤答である。

○ 選択肢3 ↓ 〈各回の主な内容〉では、今回の特集以外に他の特集があることは明示していないので誤答である。

設問三

(1) 趣旨

目的に応じ、記事を結び付けながら読むことができるかどうかをみる。

目的に応じ、複数の記事を結び付けながら読むもうとするとき、該当する記事の見出しとして適切なものを選択する問題である。

本設問は、マラソンの距離やその由来を陸上クラブの人たちに説明するために、記事を繰り返し読む場面を設定した。記事と記事とを結び付けながら、マラソンの距離やその由来について書かれた記事を適切に選択することが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十年度の「国語B」(3)「情報を読み取って書く〈図書館だより〉」設問一)において、資料から必要な情報を採って取り出し、整理して書く問題をとり上げている。(※参考①)

目的に応じて複数の記事を結び付けながら、効果的な読み方を工夫することは重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと(第五・六年)

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

■評価の観点

読む能力

(2) 正答について

■正答

選択肢1 何km(キロメートル)走るの?

選択肢2 ★豆知識コーナー マラソンの始まり

※解答の順序は問わない。

■解説

○ 「何km(キロメートル)走るの?」では、マラソンの距離が42・195kmであるということを主な内容としている。「★豆知識コーナー マラソンの始まり」では、歴史的な事実を取り上げ、マラソンという競技の由来を主な内容としている。したがって、マラソンの距離やその由来を説明するための記事の見出しとして、「何km(キロメートル)走るの?」、「★豆知識コーナー マラソンの始まり」の二つを選択する必要がある。

あわせて、「何km(キロメートル)走るの?」の中に記述されている「★豆知識コーナー」に着目し、正答の二つの記事の内容を結び付けて示している編集者の意図も捉える必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○ 選択肢3 ↓ 男子並びに女子の世界記録保持者が1000

m当たり何秒で走っているかという、走るスピードについて書いている記事の見出しであるので誤答である。なお、選択肢3は、選択肢4と選択肢5の上位の見出しと捉えることもできる。

○ 選択肢4 ↓ 選択肢3を補説するように、男子並びに女子のマラソンの世界記録上位5人の順位、記録、選手の名前、国籍・所属、場所、年について書いている記事の見出しであるので誤答である。

○ 選択肢5 ↓ 選択肢4と関連させ、日本人選手に注目し、男子の日本記録をもつ高岡寿成選手と、女子の世界記録上位10人に入っている渋井陽子選手、高橋尚子選手について書いている記事の見出しであるので誤答である。

設問四

(1) 趣旨

複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する問題である。

本設問は、記事の中の事実を基に、日本の女子選手が活躍してきたと考えられる理由をまとめて書く場面を設定した。「マラソンの世界記録上位5人」と「日本人選手の記録」の二つの記事を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして記述することが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十年度の「国語B」(3)「情報を読み取って書く(図書館だより)」設問(二)において、グラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを明確に書く問題を取り上げている。また、平成二十二年

度の「国語B」(4)「情報を関係付けて読む(目覚まし時計)」において、複数の資料を比べて読み、資料の情報と決定した条件とを関係付けながら、理由を明確にして説明する問題を取り上げている。
(※参考①)

新聞や雑誌などの記事を結び付けて読むことは、情報を効果的に活用しながら自分の考えをもつことにつながるので重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと(第五・六学年)

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。

B 書くこと(第三・四学年)

ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

読む能力
書く能力

(2) 正答について

■正答例

○ (日本の女子選手は、世界的に活やくしてきたと考えられます。そのように考えた理由は、野口みずき選手、井陽子選手、高橋尚子選手の三人が二時間十九分台の記録をもち、世界第十位までに入っているからです。(五十七字))

※「洪」・「井」・「尚」は、学年別漢字配当表以外の常用漢字であるため、平仮名表記でよい。

■解説

○ 正答の条件は、次の二つとする。

① 「マラソンの世界記録上位5人」と「日本人選手の記録」の二つの記事を結び付けながら読み、金子さんの考えの理由となる事実を、両方から取り出したり、まとめたりして書いている。

② 「そのように考えた理由は、」に続くように、四十字以上、六十字以内で書いている。

○ ここで取り上げている金子さんの考えの中心は、「金子さんがまとめた内容」の中の「日本の女子選手は、世界的に活やくしてきた」ということである。この考えの理由と

なる事実を、「マラソンの世界記録上位5人」と「日本人選手の記録」の二つの記事を結び付けながら捉える必要がある。

○ 条件①については、二つの記事から金子さんの考えの理由となる事実として、順位、名前、記録の三つを取り上げることが適切である。

・ 順位、名前、記録の中で、最も重要な情報は、順位である。日本の女子選手の中には、世界第三位、世界第八位、世界第九位と、世界第十位までに入っている選手が複数存在していることを捉える必要がある。

・ 順位、名前、記録の中から二つを取り上げている場合、二つの記事に触れて解答していれば正答と判断する。順位が最も重要な情報であることを踏まえると、順位と名前の二つ、順位と記録の二つを組み合わせて解答することが適切である。名前と記録の組合せについては、順位を取り上げていないが、活躍の理由となる事実を捉えることができたという判断し、正答とする。

・ 順位、名前、記録の中から一つを取り上げている場合、二つの記事に触れて解答していれば正答と判断する。前述のとおり、活躍の理由となる事実を捉えることができたと好意的に判断するものである。

・ 順位と記録のそれぞれを三人分羅列している場合、二つの記事を結び付けながら読み、活躍の理由となる事実を捉えているものと好意的に判断する。この場合、三人の人物は捉えていると判断し、名前については取り上げているものとする。例えば、「第三位」、「第八位」、「第九位」と書いている場合、順位と名前の二つを取り上げていると判断する。

○ 条件①、②を満たしているものうち、次のようなものは正答となる。

・ 「順位、名前、記録の中から二つを取り上げている場合」
・ (日本の女子選手は、世界的に活やくしてきたと考えら

れます。そのように考えた理由は、「以下、この書き出しの言葉は省略する。」野口みずき選手が世界第三位、渋井陽子選手が世界第八位、高橋尚子選手が世界第九位に入っているからです。(五十文字)
↓右記の例は、名前と順位の一つを取り上げている。この例は、解答類型2にあたる。

・日本の女子選手の中には、二時間十九分十二秒で世界第三位の選手や、二時間十九分四十一秒で世界第八位の選手がいるからです。(五十九字)

↓右記の例は、記録と順位の一つを取り上げている。この場合、三人のうち二人の記録と順位しか取り上げていないが、二つの記事に触れて解答しているので、好意的に判断し、正答とする。この例は、解答類型2にあたる。

・野口選手が二時間十九分十二秒、渋井選手が二時間十九分四十一秒、高橋選手が二時間十九分四十六秒の記録をもっているからです。(六十文字)

↓右記の例は、名前と記録の二つを取り上げている。この例は、解答類型2にあたる。

〔順位、名前、記録の中から一つを取り上げている場合〕
・世界第三位の選手がいるからです。また、上位十人まで見ると、世界第八位の選手がいることも理由となります。(五十一字)

↓右記の例は、順位だけを取り上げている。この場合、野口選手の順位については取り上げる必要がある。この例については、三人のうち二人の順位しか取り上げていないが、二つの記事に触れて解答しているので、好意的に判断し、正答とする。この例は、解答類型3にあたる。

・野口みずき選手、渋井陽子選手、高橋尚子選手が、ベルリンの大会でもよい成績を残しているからです。(四十九字)

↓右記の例は、名前だけを取り上げている。この場合、野口選手の名前については取り上げる必要がある。この例については、前述のとおり、活躍の理由となる事

実を名前に着目して捉えることができた」と好意的に判断し、正答とする。この例は、解答類型3にあたる。

・日本の女子選手の中には、二時間十九分十二秒の記録をもつ選手や、二時間十九分四十一秒の記録をもつ選手がいるからです。(五十七字)

↓右記の例は、記録だけを取り上げている。この場合、野口選手の記録については取り上げる必要がある。この例については、日本の女子選手が二時間十九分台と接近した好記録であり、そのことが活躍の理由となる事実と捉えることもできる。また、この場合、三人のうち二人の記録しか取り上げていないが、二つの記事に触れて解答しているので、好意的に判断し、正答とする。この例は、解答類型3にあたる。

(3) 誤答について

■解説

○金子さんの考えの理由となる事実を、一つの記事のみから取り出したり、まとめたりしているものや、金子さんの考えの理由となる事実を挙げていないもの、示された字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。次のようなものは誤答となる。

・野口みずき選手が二〇〇五年にベルリンで行われた大会で二時間十九分十二秒の記録を出し、世界第三位に入っているからです。(五十八字)

↓右記の例は、「マラソンの世界記録上位5人」の記事のみから、理由となる事実を取り出したり、まとめたりして書いている。この例は、解答類型5にあたる。

・渋井陽子選手が二時間十九分四十一秒で世界第八位、高橋尚子選手が二時間十九分四十六秒で世界第九位に入っているからです。(五十八字)

↓右記の例は、「日本人選手の記録」の記事のみから、理由となる事実を取り出したり、まとめたりして、「マラソンの世界記録上位5人」の記事には触れずに書いている。この例は、解答類型5にあたる。

3 学習指導に当たって

(1) 適切な雑誌を選んで読む

目的に応じて、適切な雑誌を読むことが重要である。雑誌は、一般的に、雑多なことが記載された書物で、週刊、月刊などのように定期的に刊行されるものが多い。それらの雑誌を、国語科の教材として計画的に取り入れることが重要である。目的に応じて、適切な雑誌を選び、その特徴や編集者の意図を考えながら、効果的に読むことができるように指導することが大切である。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）「読むこと」では、「効果的な読み方に関する指導事項」において、様々なメディアの一つとして雑誌を取り上げている。そして、比べ読み、速読、摘読、多読など多様な読み方の中から、目的に応じて、効果的な読み方を選択し、活用することが重要だとしている。

(2) 複数の資料を関係付けて読む

目的に応じて、複数の資料を選び、それらを関係付けて読むことが重要である。そのためには、目的を明確にすることで、どのような内容を、どのように関係付ければよいかを考えながら読むことができるように指導することが大切である。

このことに関連して、平成二十二年度の授業アイデア例「目的や意図に合わせて行動計画を立てることを通して、必要な情報を関係付けながら的確に読み取る」において、授業の具体的な進め方を例示している。（※参考②）

(3) 本や文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりする

本や文章の情報を基にして、自分の考えを広げたり深めたりすることが重要である。そのためには、書き手がどのような事例を挙げ、理由や根拠としているのか、また、どのような感想や意見、判断や主張などを行い、考えを論証したり説得したりしようとしているのかなどについて、書き手の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていけるように指

4 出典等

導することが大切である。

さらに、考えたことを発表し交流することも重要である。それが考えたことの共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが大切である。

記事 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）のウェブサイト

国際陸上競技連盟（IAAF）のウェブサイト

公益財団法人日本陸上競技連盟（JAAF）のウェブサイト

【監修】三上孝道 【文】大野益弘、高橋玲美『これだけは知っておきたい(11)オリンピックの大常識』（二〇〇四年六月 株式会社ポプラ社）などを参考に作成。

地図 ★豆知識コーナー マラソンのはじまりは、【監修】三上

孝道 【文】大野益弘、高橋玲美『これだけは知っておきたい(11)オリンピックの大常識』（二〇〇四年六月 株式会社ポプラ社）による。

写真 男子マラソンのスタート直後（2011年世界陸上競技選手権）は、『ランナーズ』（二〇一一年十一月一日 第三十六卷第十一号通巻四七五号 株式会社アールビーズ）による。
野口みずき選手、高岡寿成選手は、公益財団法人日本陸上競技連盟（JAF）のウェブサイトによる。

(※参考①) 過去の全国学力・学習状況調査との関連

	四	三	設問番号
	H 22 B 4	H 20 B 3	H 20 B 3
	三つの時計の中から、条件に合ったものを選び、それを選んで理由を書く	「図書館だより」のグラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを書く	「図書館だより」から、6年生が読書相談をすることができると曜日と時間帯を書く
	六五・七	三三・〇	三九・四
			関連する過去の設問番号・設問の概要・正答率(%)

(※参考②) 授業アイデア例との関連

【平成22年度「国語B」4「情報を関係付けて読む〈目まし時計〉】

目的や意図に合わせて行動計画を立てることを通して、必要な情報を関係付けながら的確に読み取る。

■学習指導要領（平成10年告示）における領域・内容
 [第5学年及び第6学年] C 読むこと
 エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。
 オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

1 水族館を見学する目的と全体での行動計画について確認する。

↓

2 右のパンフレットを基にして、グループごとに、
 ①調べる具体的な内容
 ②見学する場所
 ③順路
 ④役割分担
 ⑤約束事 などについて話し合う。

↓

3 グループごとに決まったことを発表する。

【見学の目的と行動計画】

① 見学の目的：海に住む生き物の特ちょうと生活の様子を調べて報告する。
 ② 行動計画：グループ活動（13:00～15:00） 出入口に集合（15:15）…
 【例】Aグループの調べる内容…アザラシとアシカのちがいについて

【水族館のパンフレット(例)】

■館内の案内図

■イベントの案内(時間, 場所, 内容)

イルカのショー (30分間)	11:30～	15:00～
えさやり体験 (25分間)	10:00～	14:30～
飼育員への質問 (20分間)	10:45～	13:30～

◇イルカのショー →イルカプールにおいて…
 ◇えさやり体験 →アザラシ・アシカゾーンにおいて…
 ◇飼育員への質問 →不思議発見スペースにおいて…

Aグループでは、調べる内容や集合時刻のことなどを考え、まず、13:30からの「飼育員への質問」へ行きます。そこでは、…などについて質問しようと思います。その後は、14:30からの「えさやり体験」へ行きます。
 ～(発表が続く)～

Ⅲ 調查問題等

小学校第6学年

国語 A

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題には、国語と算数の問題があります。国語の問題は、1ページから11ページまであります。算数の問題は、反対側の表紙から始まり、1ページから11ページまであります。
- 3 解答用紙には、国語の解答らんの面と算数の解答らんの面があります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はつきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、次のとおりです。
 - ・国語 A 20分間
 - ・算数 A 20分間※それぞれの時間になったら、合図があります。※国語の問題を解き終わっても、算数の問題に進んではいけません。
- 6 ※解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
机つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

— 次の(1)から(3)までの文の ——— 部の漢字の読みを、ひらがなで書いていねいに書きましよう。

(1) 新しいビルを 建築 する。

(2) 親から 独立 してくらす。

(3) 参加することを 許す。

二 次の(1)から(3)までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

(1) 病院で いしや にみてもらう。

(2) 東から たいよう がのぼる。

(3) 白い ぬのを青くそめる。

中村さんは、次の【高木さんの発表のはじめの部分】を聞きながら、質問をしたい内容をカードに書いています。カードの内容は、どのようなねらいをもっていますか。その説明として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【高木さんの発表のはじめの部分】

みなさん、野生動物とはどのような動物か知っていますか。

野生動物とは、山や野原などの自然の中でくらしている動物たちのことです。その種類を正確につかむことは難しく、五百万とも五千万ともいわれています。その野生動物の一部が世界各地で絶滅の危機に直面しているということを知りませんでした。

そこで、わたしは、どのような原因で絶滅が進んでいるのか疑問をもち、調べてみることにしました。

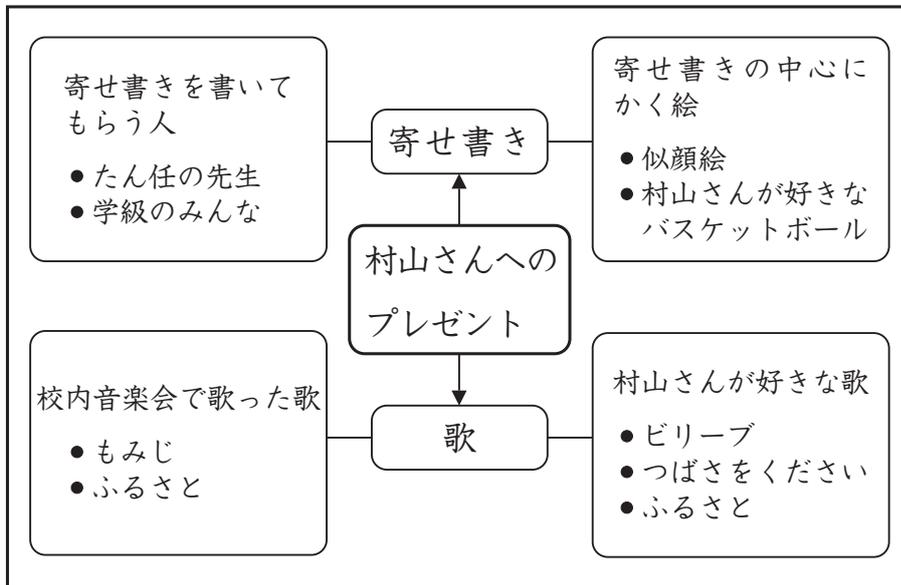
（発表が続く）

【中村さんが書いたカード】

野生動物の一部が世界各地で絶滅の危機に直面しているということだが、それらの動物の名前をいくつか教えてほしい。

- 1 調べるために役に立った資料は、どのようなものかを知ろうとしている。
- 2 最も伝えたかったことは、どのようなことを確かめようとしている。
- 3 発表の内容について、どのような具体例があるのかを知ろうとしている。
- 4 調べたきっかけは、どのようなことだったのかを確かめようとしている。

【グループで出された内容を整理した図】



【グループとしての提案を決めている様子】

今田 それでは、グループとしての提案を決めることにします。転校する村山さんへのプレゼントは、寄せ書きと歌の二つでいいですか。

全員 はい。

今田 寄せ書きを書いてもらう人は、たん任の先生と **ア** です。寄せ書きの中心にかく絵は、似顔絵と村山さんが好きなバスケットボールにします。歌は、校内音楽会で歌った歌で、村山さんが好きな歌でもある、**イ** を学級のみんなで歌うことにしたらどうでしょうか。

全員 はい。いいと思います。

今田 では、これらをグループの提案とします。

ア . **イ** の中に入るふさわしい言葉を、図の中からそれぞれぬき出しましょう。

整理しながら話し合いました。今田さんのグループでは、出された内容を次の図のように提案し合うことにしました。今田さんのグループでは、転校する村山さんへのプレゼントを何にするか、グループごとに整理しながら話し合いました。そして、グループとしての提案を決めることにしました。

4

小森さんの学級では、一人一人がお気に入りの話を選んで、音読の発表会をすることにしました。小森さんは、次の「ないしょ」という笑い話を選び、音読の仕方を考えています。話の中の①から④までのそれぞれの会話文は、どのような声の大ききさで読むとよいですか。【音読の仕方】の中のアかイのどちらかを選んで、その記号をそれぞれ書きましょう。

【小森さんが選んだ話】

（さとうわきこ）『小さなわらいばなし 4』による。

（さとうわきこ）『小さなわらいばなし 4』による。

【音読の仕方】

ア はなれた場所から話しかけるように、大きめの声で読む。
イ ほかのだれかに聞かれないように、小さな声で読む。

- ①の会話文…
- ②の会話文…
- ③の会話文…
- ④の会話文…

※解答は、解答用紙に書きましょう。

【百科事典の記述の一部】

サクラ【桜】

日本のサクラは、美しく、たくさんの種類がある。

～（中略）～

サクラは、古くから日本の人々に親しまれている。花見は、サクラの花を見て楽しみ、春の訪れを感じる行事として広く行われている。また、サクラは、短歌や俳句などの題材として取り上げられている。

サクラは、日常の生活の中でも使われている。塩づけにしたサクラの葉でもちをくるんだものは、桜もちと呼ばれる。桜湯とは、塩づけにしたサクラの花を湯に入れたもので、お祝いのときなどに飲まれている。サクラの樹皮は、皿や茶づつなどの工芸品として使われている。

～（内容が続く）～



▲サクラ
（ソメイヨシノ）

野村さんは、サクラについて興味をもち、百科事典で調べて分かったことをノートにまとめました。
 ア・イ の中に入るふさわしい言葉を、【百科事典の記述の一部】の中からそれぞれぬき出しましょう。

【ノートの一部】

サクラ<桜>

○ 花見…サクラの花を見て楽しみ、春の訪れを感じる行事

○ 短歌や俳句…サクラを題材として取り上げている

親
しま
れ
方

○ 桜もち…塩づけにしたサクラの葉で
もちをくるんだもの

○ **ア**…塩づけにしたサクラの花を
湯に入れたもの

食
品

使
わ
れ
方

○ 樹皮を使って作られた皿や茶づつなど

イ

～（内容が続く）～

6

青木さんの学級では、一人一人が物語を書いて、発表し合うことにしました。青木さんは、次のように下書きをしたあと、書き直しをしました。そして、書き直しをしたところをグループの人たちに説明しています。【グループでの青木さんの説明】の の中に入る言葉として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【下書きをした物語の一部】

転校生がやって来る日の朝、教室の中は落ち着かなかった。
ガラガラという教室のドアが開く音がした。そこに学級全員の注目が集まった。先生に続いて、男の子が入ってきた。

「今日からみんなといっしょに勉強することになった上田勇二さんです。」

先生のしよかいを全員が耳をすまして聞いていた。その中に首をかしげている女の子がいた。

～（物語が続く）～



【下書きの書き直しをした物語の一部】

転校生がやって来る日の朝、広子は落ち着かなかった。
ガラガラという教室のドアが開く音がした。広子は、身を乗り出して入り口をじっと見た。先生に続いて、男の子が入ってきた。

「今日からみんなといっしょに勉強することになった上田勇二さんです。」

先生のしよかいを聞きながら広子は、首をかしげた。初めて会ったはずの勇二とどこかで会ったことがあるような気がした。

～（物語が続く）～

【グループでの青木さんの説明】

下書きは、教室の全体の様子をながめながら、そこで起きている事実を中心に書きました。でも、その時の人物の様子がくわしく伝わらないのではないかと考えました。

そこで、の立場に寄りそって、細かな動きやその時に感じたことが具体的に分かるように書き直しました。

1 学級全員

2 先生

3 勇二

4 広子

7

第三小学校の新聞委員の内山さんは、学校の合唱部が活やくしていることを学校新聞の記事に書くことにしました。【学校新聞の記事の一部】の の中に、【取材した内容の一部】の①から④までを一文にまとめて書きます。書き出しの言葉に続く内容を、二十字以上、三十字以内で書きましよう。
 (書き出しの言葉は、字数にはふくみません。)

【取材した内容の一部】

- ① 合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれた。
 - ② そのコンクールに、第三小の合唱部が出場した。
 - ③ 第三小の合唱部は、そのコンクールで金賞に選ばれた。
 - ④ 第三小の合唱部は、来月開かれる全国大会に出場することになった。
- 〽 (メモが続く) 〽

【学校新聞の記事の一部】

第三小☆学校新聞 平成24年7月号

第三小の歌声 全国へ

県大会で金賞

七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、

〽 (記事が続く) 〽

吉田さんの学級では、「慣用句」について学習しました。「慣用句」とは、二つ以上の言葉が組み合わせられて、ひとまとまりの意味を表す言葉です。吉田さんは、「話」という言葉を用いた慣用句の意味と、その使い方をカードに書いています。

として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。



の中に入る「話がはずむ」の意味

【吉田さんが書いたカード】

〔話が合う〕

◆意味…話題などが合い、打ち解けて話すことができる。

◆使い方…親友とは好みが同じで、話が合う。

〔話はずむ〕

◆意味…



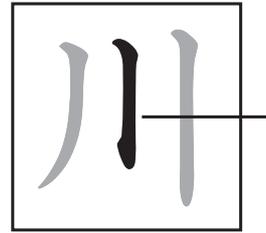
◆使い方…友達と久しぶりに会い、話はずむ。

- 1 相手が内容を理解し、短い時間で結論^{けつろん}が出る。
- 2 話のやりとりが、次から次へと調子よく続く。
- 3 物事の事情やすじ道、理由について理解がある。
- 4 話し合いや相談がまとまって、物事が解決する。

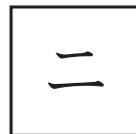
9

北村さんは、漢字を書くとき、筆順に従って正しく書くようにしています。例のように、「申」と「赤」の黒くなぞった点画が何画目になるかをそれぞれ書きましょう。

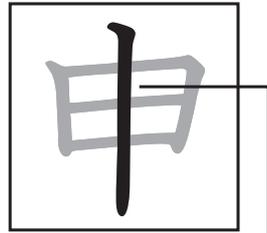
(例)



「川」の黒くなぞった「丨」の部分



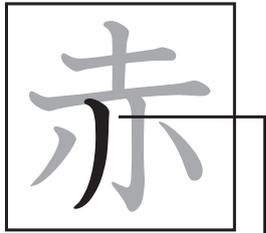
画目



「申」の黒くなぞった「丨」の部分



画目



「赤」の黒くなぞった「丨」の部分



画目

これで、国語Aの問題は終わりです。

注意

合図があるまで、次のページを開かないでください。

小学校第6学年

国語 B

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから14ページまであります。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はつきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、40分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 机つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

1

中央小学校の平川さんの学級では、働くことの大切さについて発表し合うことにしました。平川さんのグループでは、先月、学級に招いた「かがやきの森動物園」の園長の宮本さんにあらためて話を聞くことにしました。次は、代表の平川さんが【手紙の構成】をもとにしながら書いている、動物園への訪問^{ほうもん}をお願ひする【手紙の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【手紙の構成】

■前文

(はじめのあいさつ)

季節の言葉や
自分のしょう
かいなど

■本文

(中心になること)

手紙を出す理由
や願ひする
内容など

【手紙の下書き】

木々の緑が美しい季節となりました。先日はおいそがしい中、わざわざ中央小学校までおこしいいただき、ありがとうございました。わたしは、その時、学級を代表してお礼の言葉を申し上げた、六年一組の平川春美です。その後、お元気でいらっしゃいますか。

今日は、宮本さんにお願ひがあり、手紙を書きました。たん任の前田先生から事前に連らくを差し上げたかと思いますが、わたしたちの学級では、働くことの大切さについて調べたことをグループごとに発表し合うことにしました。そこで、わたしたちのグループでは、動物と関わる仕事についてくわしく調べて発表しようと考えました。

つきましては、

A

■ 末文^{まつぶん}

(終わりのあいさつ)

相手を気づかう
言葉など

■ 後付け

(手紙の最後に付ける

内容)

名前や日付など

そのために一度、宮本さんの職場にうかがわせていただくことは
できないでしょうか。勝手なお願いで大変申しわけありませんが、
ほう問ができるかどうか、お返事をいただければと思います。

お返事には、

B

お返事の内容を確かめさせていただき、そちらへうかがう日時について、
できるだけ早くお電話を差し上げるようにします。

ご迷わくをおかけしますが、ご協力をいただけますよう、どうかよろ
しくお願いします。これからもお体に気をつけてお過ごしください。

A

I

ウ

一 平川さんは、【手紙の下書き】の本文の一部に、宮本さんに教えてもらいたい具体的な内容を書こうとしています。 **A** の中に入る内容として最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 先日、宮本さんが話してくださった動物園の仕事について、わたしたちだけでなく、地域のみなさんにも知ってほしいと考えました。

2 動物園の仕事をはじめられたきっかけ、動物と関わる仕事の喜びやご苦労などについて、くわしくお話をしていただきたいと思います。

3 先日の宮本さんのお話やこれまで調べたことをもとにして、分かりやすい発表になるよう、グループで力を合わせて準備を進めています。

4 宮本さんのお話をお聞きして、かがやきの森動物園にいる動物の種類や名前、それらの特ちょうなどがとてもよく分かりました。

二 平川さんは、本文の **B** の中に、宮本さんからどのようなようにして返事をもらうかということについて書こうとしています。次の【平川さんが書いたメモ】の内容をもとに、あとの条件に合わせて書きましよう。

【平川さんが書いたメモ】

●返事のもらい方…ふうとうの中のはがきを返事に使ってもらおう。

●返事の内容 …ほう問ができる場合→六月の土曜日か日曜日で、宮本さんのつごうが

よい日時をはがきを書いてもらう。

六年生の白石さんの学級では、中学校での学習や生活への準備をするために、中学生にインタビューをすることにしました。インタビューは、「学習」・「部活動」・「学校行事」・「生徒会活動」の四つに分け、グループごとに行います。次は、白石さんのグループが、「部活動」に関する質問の内容を話し合っている様子です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】 ※①白石(司会)・②白石(司会)・③白石(司会)の発言の内容は、問いと関係があります。

白石(司会)

〽(部活動に関する質問を出し合っている)〽
ここで一度、出された質問を順番に確かめてみます。

- 1 部活動には、どのようなものがあるのか。
- 2 部活動は、土曜日と日曜日もあるのか。
- 3 それぞれの部には、何人まで入ることができるのか。
- 4 人数が一番多い部は、何人いるのか。
- 5 部活動は、何時から何時まで行うのか。

①白石(司会)

この五つの質問は、二つのまとまりに分けられそうです。一つは、「部活動の種類と人数に関する質問」で、**A** (ハ)・(ハ)・(ハ)が当てはまります。もう一つは、「部活動の曜日と時間に関する質問」で、**B** (ハ)・(ハ)が当てはまります。これらの質問はまとめられそうですので、あとで整理することにします。それでいいですか。

全員

はい。

白石(司会)

それでは、質問をしたい内容を続けて出してください。

先生

② 白石（司会）

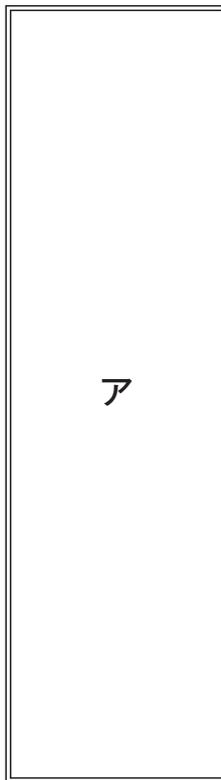
あなたの発表

③ 白石（司会）

竹中

（質問が出しつくされたところで、先生から助言が入る）

この資料を見てください。これは、中学校の生徒会が、「部活動に対する満足度」について、中学二年生と中学三年生を対象に調査した結果をまとめたグラフです。質問を考える際の参考にしてください。先生、ありがとうございます。この資料をもとにすると、中学生にどんな質問ができそうですか。



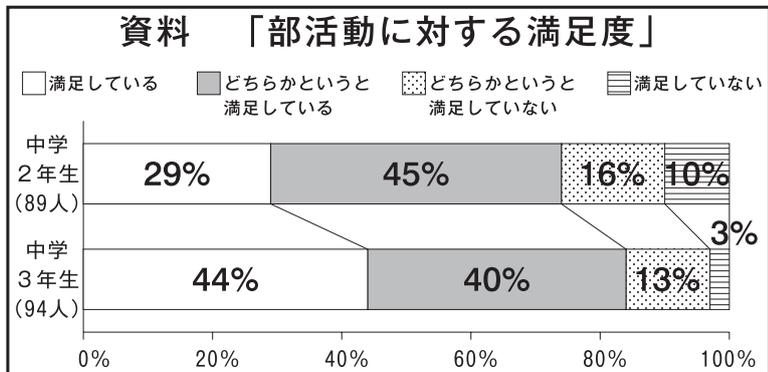
（発表が続く）

これまでに多くの質問を出してもらいましたが、ここで少し考えてもらいたいことがあります。

わたしたちのグループは、中学校での部活動に向けて、どのような準備をすればよいかということについて、質問をすることが大切です。この点をふまえて、さらに質問の内容を考えてみてください。

「部活動を決めるのは、入学してすぐなのか。いつまでに決めなければならないのか。」と質問をしたいです。その理由は、（中略）からです。

（話し合いが続く）



一 ①白石(司会)さんは、これまでに与えられた五つの質問を二つのまとまりに分けています。
【話し合いの様子】の の中の1から5までの質問を、A に三つ、B に二つになるように分け、その番号を書きましよう。

部活動の種類と人数に関する質問 ……

A
〔 〕 ・ 〔 〕 ・ 〔 〕

部活動の曜日と時間に関する質問 ……

B
〔 〕 ・ 〔 〕

二 ②白石(司会)さんは、グループの人たちに、資料「部活動に対する満足度」をもとにして、中学生に対する質問を出してもらおうとしています。あなたなら、ア のところでどのような質問を考えて発表しますか。次の条件に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- 資料の中の中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べてちがうこと、あるいは両方に共通していることを取り上げて、質問をしたいことをはっきりと書くこと。(割合については、「%」と表記してもよい。)
- 六十字以上、百字以内にまとめて、発表するように書くこと。

陸上クラブの金子さんは、長い距離を速く走ることを目標にしています。そこで、子ども向けの雑誌の中から陸上競技について書かれた記事を探して読みました。次の【月刊『未来へはばたく☆小学生』の一部】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【月刊『未来へはばたく☆小学生』の一部】

特集

マラソン

第1回

2012年7月、ロンドンオリンピックが開幕する。陸上競技の中で、最も長い距離を走るマラソン。身体的、精神的な限界にいどむ選手たちの姿は、人々の心をひきつける。今回から3回にわたって、マラソンを特集し、その魅力などを紹介していく。



男子マラソンのスタート直後の写真

▲男子マラソンのスタート直後（2011年世界陸上競技選手権）

何km(キロメートル)走るの？
マラソンの距離は、なんと42・195km(★豆知識コーナー)。世界共通である。男子も女子も同じ距離を走る。この距離で行われるマラソンを「フルマラソン」という。世界各地の市民向けの大会などで取り入れられているハーフマラソン(21・0975km)なども「マラソン」と呼ぶことがある。

〈各回の主な内容〉

【第1回】(4月号)

■世界のトップランナー

- ・何km(キロメートル)走るの？ (15ページ)
- ・トップランナーの走るスピードは… (16ページ)
- ・トップランナーの練習法 (17～18ページ)

【第2回】(5月号)

- 今、マラソンが人気！
増える市民ランナーたち

【第3回】(6月号)

- あなたも長い距離を走ってみよう！

未来へはばたく☆小学生 15

★豆知識コーナー

マラソンの起源

かつて古代ギリシャが、ペルシャの大軍に「マラトンの戦い」で勝ったとき、勇ましいギリシャ人の一人が、その知らせをアテネまでの約40kmを走って伝えたという。このことがもとになり、1896年にアテネで開かれた第1回オリンピックにおいて、マラトンとアテネの間で競走が行われた。これが、マラソンのはじまりであるといわれている。

マラトンとアテネを結ぶ地図



トップランナーの走るスピードは…

42.195kmをいかに速く走りぬけるかを競うマラソン。2011年7月現在、男子の世界記録は、2時間03分59秒で、ハイレ・ゲブレシラシエ選手(エチオピア)がもっている。女子の世界記録は、2時間15分25秒で、ポーラ・ラドクリフ選手(イギリス)がもっている。100mを何秒で走る計算になるかという点、男子が約17.6秒、女子が約19.3秒。この速さで走り続けるのだから、おどろきである。

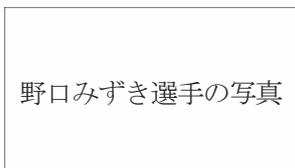
【マラソンの世界記録上位5人】▼国際陸上競技連盟の資料を参考にした。(2011年7月現在)

(男子選手)

順位	記録	選手の名前	国籍・所属	場所	年
1	2時間03分59秒	ハイレ・ゲブレシラシエ	エチオピア	ベルリン	2008
2	2時間04分27秒	ダンカン・キベト	ケニア	ロッテルダム	2009
		ジェームズ・クワンバイ	ケニア	ロッテルダム	2009
4	2時間04分40秒	エマヌエル・ムタイ	ケニア	ロンドン	2011
5	2時間04分48秒	パトリック・マカウ	ケニア	ロッテルダム	2010

男子が2時間をきる日は、いつだろっか。

(女子選手)



野口みずき選手の写真

▲野口みずき選手

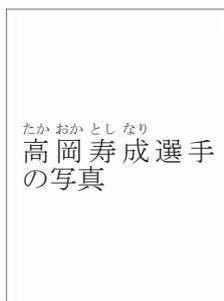
順位	記録	選手の名前	国籍・所属	場所	年
1	2時間15分25秒	ポーラ・ラドクリフ	イギリス	ロンドン	2003
2	2時間18分47秒	キャサリン・ヌデレバ	ケニア	シカゴ	2001
3	2時間19分12秒	野口みずき	日本	ベルリン	2005
4	2時間19分19秒	イリーナ・ミキテンコ	ドイツ	ベルリン	2008
		メアリー・ケイタニー	ケニア	ロンドン	2011

日本人選手の記録

(男子選手)

男子の日本記録をもつのは、高岡寿成選手。

2002年のシカゴマラソンで、2時間06分16秒の記録を出した。この記録は、世界第29位にあたる。(2011年7月現在)



高岡寿成選手の写真

▲高岡寿成選手

(女子選手)

女子の世界記録を上位10人まで見ると、次の選手たちもその中に入る。

◆ 渋井陽子選手

→ 2時間19分41秒【世界第8位】
(2004年 ベルリン)

◆ 高橋尚子選手

→ 2時間19分46秒【世界第9位】
(2001年 ベルリン)

〈大募集！読者からの質問〉 マラソンについての質問をどしどしお寄せください。くわしくは89ページを…

一 金子さんは、この雑誌や読んだ記事の特徴を次のようにとらえました。アとイの文の一部には、どのような内容が入りますか。アの文の一部に入る内容としてふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。また、イの文の の中に入る内容としてふさわしい言葉を、記事の中からぬき出しましょう。

【この雑誌や読んだ記事の特徴】

ア	この雑誌は、	<table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">4</td> <td style="padding: 5px;">3</td> <td style="padding: 5px;">2</td> <td style="padding: 5px;">1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">二か月に一回</td> <td style="padding: 5px;">毎月</td> <td style="padding: 5px;">毎週</td> <td style="padding: 5px;">毎日</td> </tr> </table>	4	3	2	1	二か月に一回	毎月	毎週	毎日	発行される。
4	3	2	1								
二か月に一回	毎月	毎週	毎日								
イ	今回からの特集は、「マラソン」であり、第1回で取り上げた主な内容は、 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	に注目し、走るスピードや練習法などを記事にしている。									

二 金子さんは、この雑誌の中の〈各回の主な内容〉を読み、編集者が読者に対して、どのようなねらいをもって示そうとしたのか考えました。編集者のねらいを説明したものととして最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 この特集を組むことによって、読者にいろいろなスポーツに興味をもたせようとしている。
- 2 この特集は、トップランナーたちに読んでほしいということを読者に伝えようとしている。
- 3 この雑誌の中に、今回の特集以外に他の特集があることを読者に知らせようとしている。
- 4 この特集で取り上げていく全体の内容を示し、読者に続けて読んでもらおうとしている。

三 金子さんは、マラソンの距離きょりやその由来を陸上クラブの人たちに説明するために、記事をくり返し読むことにしました。特集の中の、どの記事とどの記事をつなぎながら読むとよいですか。次の二つの の中に入る記事の見出しを、あとの1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

(解答の順序は問いません。)

「マラソンの距離やその由来について説明するためには、
」の記事と「」の
記事をつなぎながら読むとよい。

- 1 何km(キロメートル)走るの？
- 2 **★豆知識コーナー** マラソンのはじまり
- 3 トップランナーの走るスピードは…
- 4 マラソンの世界記録上位5人
- 5 日本人選手の記録

四 金子さんは、日本の女子選手と男子選手のそれぞれについて考えたことをまとめています。

【金子さんがまとめた内容】の

の中には、どのような内容を書くといいですか。

あとの条件に合わせて書きましょう。

【金子さんがまとめた内容】

日本の女子選手は、世界的に活やくしてきたと考えられます。そのように考えた理由は、

日本の男子選手は、：

（省略）

〈条件〉

- 「マラソンの世界記録上位5人」と「日本人選手の記録」の二つの記事を結び付けながら読み、金子さんの考えの理由となる事実を、両方から取り出したり、まとめたりして書くこと。
- 「そのように考えた理由は、」に続くように、四十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

日本の男子選手は、 … （省略）	◆	た	日	本	の	女	子	選	手	は、	世	界	的	に	活	や	く	し	て	き		

60字 40字

平成24年度 全国学力・学習状況調査
平成24年4月 文部科学省

解答用紙

小学校第6学年
国語B 解答用紙

《ここから右には解答を書きはいけません。》

1

一

※◆の印から書きましょう。とちゅうて行を変えないで、続けて書きましょう。

二

三

ア イ ウ

80字 60字

2

一

A ()・()・()

B ()・()

※◆の印から書きましょう。とちゅうて行を変えないで、続けて書きましょう。

二

三

60字 100字

3の解答らんは、裏面にあります。

《ここから右には解答を書きはいけません。》

《ここから下には解答を書きはいけません。》

学校名	組	出席番号	男女	個人番号
				国B

※個人番号票を見ながら、1ますに1けたずつ、数字を書き写してください。

《ここから右には解答を書いてはいけません。》

3

一	イ	
	ア	
二		
三		
四	※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。	
	日本の女子選手は、世界的に活やくしてき たと考えられます。そのように考えた理由は	
	◆	
日本の男子選手は、… （省略）		

60字 40字

《ここから左には解答を書いてはいけません。》

正 答（例）

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅱ 調査問題の解説」や「2 解答類型」に記載しているのので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも参照されたい。

小学校第6学年
国語A 解答用紙

7011

↑ <ここから右には解答を書いてはいけません。>

1

一	(1)	けんちく
	(2)	どくりつ
	(3)	ゆる (す)
二	(1)	医者
	(2)	太陽
	(3)	布

↓ 解答類型 P.6 参照

2

3

3

ア	学級のみんな
イ	ふるさと

↓ 解答類型 P.7 参照

↓ 解答類型 P.7 参照

4

①の会話文： ア

②の会話文： イ

③の会話文： イ

④の会話文： イ

↓ 解答類型 P.7 参照

5

ア	桜湯
イ	工芸品

↓ 解答類型 P.7 参照

6

4

↓ 解答類型 P.8 参照

7

※◆の印から書きましょう。どちゅうて行を変えないで、続けて書きましょう。

七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、

◆	金	賞	に	選	ば	れ	、	来
月	開	か	れ	る	全	国	大	
会	に	出	場	す	る	こ	と	
に	な	っ	た	。				

20字

30字

↓ 解答類型 P.8 参照

8

2

↓ 解答類型 P.8 参照

9

一	五	画目
二	四	画目

↓ 解答類型 P.9 参照

<ここから左には解答を書いてはいけません。>

<ここから下には解答を書いてはいけません。>

学校名

組

出席番号

男女

個人番号

国A算A

※個人番号票を見ながら、1ますに1けたずつ、数字を書き写してください。

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅱ 調査問題の解説」や「2 解答類型」に記載しているのので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも参照されたい。

1061

小学校第6学年
国語B 解答用紙

《ここから右には解答を書いてはいけません。》

1

一	2
※◆の印から書きましょう。とちゅうて行を変えないで、続けて書きましょう。	
二	◆ ふうとうの中のはがきをお使 いください。もし、ほう問 させていただける場合は、六 月の土曜日か日曜日で、宮 本さんのごつごうがよい日 時をそのはがきにお書きく ださい。
三	ア 3 イ 1 ウ 2

60字
80字

↓ 解答類型 P.12, P.13 参照

2

一	A〔1〕・〔3〕・〔4〕 B〔2〕・〔5〕	※A・Bそれぞれの解答の順序は問わない。
※◆の印から書きましょう。とちゅうて行を変えないで、続けて書きましょう。		
二	◆「満足している」の割合をみると、中学二年生の二十九%に対して、中学三年生はそれより十五%も高くなっています。そのことから、中学三年生に「どのような理由で満足度が高くなるのですか」と質問をしたいです。	60字 100字
三	3	

↓ 解答類型 P.14, P.15 参照

3の解答らんは、裏面にあります。

《ここから右には解答を書いたらはいけません。》

《ここから下には解答を書いてはいけません。》

学校名	組	出席番号	男女	個人番号

国B

※個人番号票を見ながら、1ますに1けたずつ、数字を書き写してください。

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅱ 調査問題の解説」や「2 解答類型」に記載しているので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも参照されたい。

1062

国語 B

←「ここから右には解答を書いてはいけません。」→

3

一	イ	世界のトップランナー
	ア	
二	4	※解答の順序は問わない。
三	1	
四	2	<p>※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。</p> <p>日本の女子選手は、世界的に活やくしてきたと考えられます。そのように考えた理由は</p> <p>◆野口みずき選手、渋井陽子選手、高橋尚子選手</p> <p>の三人が二時間十九分台の記録をもち、世界第十位までに入っているからです。</p> <p>日本の男子選手は、：</p> <p>（省略）</p>

40字
60字

1 解答類型 P.16、P.18 参照

※「渋」・「井」・「尚」は、学年別漢字配当表以外の常用漢字であるため、平仮名表記でよい。

←「ここから左には解答を書いてはいけません。」→

点字問題（抜粋）

— 次の(1)から(3)までの文の「・・・」で示した言葉の意味を答えましょう。

- (1) 新しいビルを「建築する」。
- (2) 親から「独立する」。
- (3) 参加することを「許可する」。

二 次の(1)から(3)までの文の「・・・」で示した部分と同じ意味の漢字を用いるものを、あとのアからエまでのの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号を書きましよう。

(1) 病院で

い「しゃ」にみてもらう。

ア きねん「しゃ」しん

イ じどう「しゃ」

ウ とうじ「しゃ」

エ かい「しゃ」いん

(2) 東から

たい「よう」がのぼる。

ア だいじな「よう」じ

イ 「よう」きなうた

ウ すい「よう」えき

エ たいへい「よう」

(3) 白い

「い」ふくを身につける。

ア ちゅう「い」する

イ 「い」いんかい

ウ 「い」こくのひと

エ こう「い」しつ

9

北村さんは、点字を正しく書くようにしています。(例)のように、**一**と**二**をそれぞれ正しい
仮名づかいに改めましょう。

(例) おかーさん

↓おかあさん

一 おねいさん

二 おおどーり

1

中央小学校の平川さんの学級では、働くことの大切さについて発表し合うことにしました。平川さんのグループでは、先月、学級に招いた「かがやきの森動物園」の園長の宮本さんにあらためて話を聞くことにしました。次は、代表の平川さんが【手紙の構成】をもとにしながら書いていく、動物園への訪問^{ほうもん}をお願ひする【手紙の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【手紙の構成】

【手紙の下書き】

☆下書きなので、手紙の構成を表す言葉が（・・・）の形で書いてあります。

(1)前付け

(手紙の最初に

付ける内容)ー

名前や日付など

(2)前文

(はじめのあいさつ)ー

季節の言葉や

自分のしやう

かいなど

(前付け)

ア

Blank box for pre-attachment (A)

イ

Blank box for pre-text (I)

平成二十四年五月七日

(前文)

木々の緑が美しい季節となりました。先日はおいそがしい中、わざわざ中央小学校までおこしいただき、ありがとうございました。わたしは、その時、学級を代表してお礼の言葉を申し上げた、六年一組の平川春美です。その後、お元気でいらっしゃいますか。

(本文)

今日は、宮本さんにお問い合わせがあり、手紙を書きました。たん任の前田先生から事前に連らくを差し上げたかと思いますが、わたしたちの学級では、働くことの大切さについて調べたことをグループごとに発表し合うことにしました。そこで、わたしたちのグループでは、動物と関わる仕事についてくわしく調べて発表しようと考えました。

つきましては、

A

そのために一度、宮本さんの職場にうかがわせていただくことはできないでしょうか。勝手なお願いで大変申しわけありませんが、ほう問ができるかどうか、お返事をいただければと思います。

お返事には、

B

お返事の内容を確かめさせていただき、そちらへうかがう日時について、できるだけ早くお電話を差し上げるようにします。

(末文)

ご迷わくをおかけしますが、ご協力をいただけますよう、どうかよろしくお願ひします。これからもお体に気をつけてお過ごしく下さい。

(3) 本文

(中心になること)ー

手紙を出す理由

やお願いする

内容など

(4) 末文

まっぶん

(終わりのあいさつ)ー

相手を気づかう

言葉など

三 平川さんは、手紙の**前付け**を書こうとしています。**【手紙の下書き】**の

イ

の中に、どのような内容を書くかよいですか。次の**1**、**2**の中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 中央小学校 六年一組

平川 春美

2 かがやきの森動物園

園長 宮本 真一 様

ここから先のページは、
裏表紙の方からお読みください。

ここから先のページは,
表紙の方からお読みください。

- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成20年度 全国学力・学習状況調査
解説資料 小学校 国語」平成20年4月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成21年度 全国学力・学習状況調査
解説資料 小学校 国語」平成21年4月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成22年度 全国学力・学習状況調査
解説資料 小学校 国語」平成22年4月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「解説資料 小学校 国語」平成23年9月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成21年度 全国学力・学習状況調査
小学校の結果を踏まえた授業アイデア例」平成21年8月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成22年度 全国学力・学習状況調査
小学校の結果を踏まえた授業アイデア例」平成22年8月
- 国立教育政策研究所ホームページ「平成23年度 小学校国語の調査問題を踏まえた
授業アイデア例」 http://www.nier.go.jp/11chousa/23_sho_koku_jugyourei.pdf

【参考文献】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領」 平成10年12月告示
- ・文部科学省「小学校学習指導要領」 平成20年3月告示
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」 平成11年5月
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」 平成20年8月
- ・全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」 平成18年4月25日
- ・全国的な学力調査の在り方等の検討に関する専門家会議「平成23年度以降の全国的な学力調査の在り方に関する検討のまとめ」 平成23年3月31日
- ・文部科学省「読解力向上に関する指導資料～PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向～」 平成17年12月
- ・文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」 平成22年11月
- ・文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【小学校版】」 平成22年12月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成のための参考資料小学校」 平成22年11月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価方法等の工夫改善のための参考資料小学校」 平成23年3月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」 平成20年1月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成20年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」 平成20年11月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成21年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」 平成21年12月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成22年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」 平成22年10月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成19年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」 平成19年5月

(55) 解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、
どのように解答しましたか。

- 1 すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で
あきらめたりしたものがあつた
- 3 書く問題は全く解答しなかった

当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
-------	----------------	------------------	---------

(50) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている…………… 1 — 2 — 3 — 4

(51) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている…… 1 — 2 — 3 — 4

(52) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている…………… 1 — 2 — 3 — 4

(53) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる…………… 1 — 2 — 3 — 4

14 あなたは、^{こくご}国語についてどのように^{おも}思っていますか。^あ当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ^{えら}選んでください。

当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
-------	----------------	------------------	---------

(45) ^{こくご}国語の^{べんきょう}勉強は^す好きだ…………… 1 — 2 — 3 — 4

(46) ^{こくご}国語の^{べんきょう}勉強は^{たいせつ}大切だ…………… 1 — 2 — 3 — 4

(47) ^{こくご}国語の^{じゅぎょう}授業の^{ないよう}内容はよく^わ分かる…………… 1 — 2 — 3 — 4

(48) ^{どくしょ}読書は^す好きだ…………… 1 — 2 — 3 — 4

(49) ^{こくご}国語の^{じゅぎょう}授業で^{がくしゅう}学習したことは、
^{しょうらい}将来、^{しゃかい}社会に出たときに^{やく}役に^た立つ…………… 1 — 2 — 3 — 4

3 質問紙調査項目 (教科関連部分)

解答類型 [点字問題] 【小学校国語】

A 主として「知識」に関する問題

◎…解答として求める条件を全て満たしている正答

設問番号	解答類型	類型番号	
1	一 (1)	・「(建物などを) 建てること」という意味が含まれているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (2)	・「ほかからの助けなどを受けず、自分の力でやっていくこと」や「ほかのものとは別に離れて存在すること」という意味が含まれているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (3)	・「許すこと」や「願いなどを聞き届けること」という意味が含まれているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二 (1)	・ウと解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
二 (2)	・イと解答しているもの	1◎	
	・上記以外の解答	9	
	・無解答	0	
二 (3)	・エと解答しているもの	1◎	
	・上記以外の解答	9	
	・無解答	0	
9	一	・「おねえさん」と解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二	・「おどおり」と解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0

解答類型 [点字問題] 【小学校国語】

B 主として「活用」に関する問題

◎…解答として求める条件を全て満たしている正答

設問番号	解答類型	類型番号	
1	三	・アに2, イに1と解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0

解答類型

点字問題部分

設問番号	解答類型	類型番号
③	四 <ul style="list-style-type: none"> ・条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例) <ul style="list-style-type: none"> ○ 野口選手が世界第三位、渋井選手が世界第八位、高橋選手が世界第九位だからです。(38字) 	4
	<ul style="list-style-type: none"> ・条件①を満たしていないもののうち、金子さんの考えの理由となる事実を、一つの記事のみから取り出したり、まとめたりしているもの(例示の下線部は関係箇所) *条件②を満たしているかどうかは不問とする。 (例1) <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>野口みずき選手が二〇〇五年にベルリンで行われた大会で二時間十九分十二秒の記録を出し、世界第三位に入っているからです。(58字)</u> →上記の例は、「マラソンの世界記録上位5人」の記事のみから、理由となる事実を取り出したり、まとめたりしており、「日本人選手の記録」の記事には触れずに書いている。 (例2) <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>渋井陽子選手が二時間十九分四十一秒で世界第八位、高橋尚子選手が二時間十九分四十六秒で世界第九位に入っているからです。(58字)</u> →上記の例は、「日本人選手の記録」の記事のみから、理由となる事実を取り出したり、まとめたりしており、「マラソンの世界記録上位5人」の記事には触れずに書いている。 	5
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の解答 	9
	<ul style="list-style-type: none"> ・無解答 	0

設問番号	解答類型	類型番号
3	<p>四 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 「マラソンの世界記録上位5人」と「日本人選手の記録」の二つの記事を結び付けながら読み、金子さんの考えの理由となる事実を、両方から取り出したり、まとめたりして書いている。</p> <p>② 「そのように考えた理由は、」に続くように、40字以上、60字以内で書いている。</p> <hr/> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (日本の女子選手は、世界的に活やくしてきたと考えられます。そのように考えた理由は、)野口みずき選手、渋井陽子選手、高橋尚子選手の三人が二時間十九分台の記録をもち、世界第十位までに入っているからです。(57字) ※「渋」・「井」・「尚」は、学年別漢字配当表以外の常用漢字であるため、平仮名表記でよい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件①、②を満たしているもののうち、条件①については、順位、名前、記録の三つを取り上げているもの 	1◎
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件①、②を満たしているもののうち、条件①については、順位、名前、記録の中から二つを取り上げているもの(例示の下線部は関係箇所) <p>(例1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (「日本の女子選手は、世界的に活やくしてきたと考えられます。そのように考えた理由は、」以下、この書き出しの言葉は省略する。)野口みずき選手が世界第三位、渋井陽子選手が世界第八位、高橋尚子選手が世界第九位に入っているからです。(50字) →上記の例は、名前と順位を二つを取り上げている。 <p>(例2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の女子選手の中には、二時間十九分十二秒で世界第三位の選手や、二時間十九分四十一秒で世界第八位の選手がいるからです。(59字) →上記の例は、記録と順位を二つを取り上げている。 <p>(例3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 野口選手が二時間十九分十二秒、渋井選手が二時間十九分四十一秒、高橋選手が二時間十九分四十六秒の記録をもっているからです。(60字) →上記の例は、名前と記録の二つを取り上げている。 	2◎
<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件①、②を満たしているもののうち、条件①については、順位、名前、記録の中から一つを取り上げているもの(例示の下線部は関係箇所) <p>(例1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界第三位の選手がいるからです。また、上位十人まで見ると、世界第八位の選手がいることも理由となります。(51字) →上記の例は、順位だけを取り上げている。 <p>(例2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 野口みずき選手、渋井陽子選手、高橋尚子選手が、ベルリンの大会でとてもよい成績を残しているからです。(49字) →上記の例は、名前だけを取り上げている。 <p>(例3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の女子選手の中には、二時間十九分十二秒の記録をもつ選手や、二時間十九分四十一秒の記録をもつ選手がいるからです。(57字) →上記の例は、記録だけを取り上げている。 	3◎	

設問番号	解答類型		類型番号
3	一 ア	・ 1 と解答しているもの	1
		・ 2 と解答しているもの	2
		・ 3 と解答しているもの	3◎
		・ 4 と解答しているもの	4
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
	一 イ	・ 「世界のトップランナー」のように、「トップランナー」に触れて解答しているもの	1◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
	二	・ 1 と解答しているもの	1
		・ 2 と解答しているもの	2
		・ 3 と解答しているもの	3
		・ 4 と解答しているもの	4◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
	三	・ 1 ・ 2 と解答しているもの（順不同）	1◎
		・ 1 と解答しているが， 2 と解答していないもの	2
		・ 2 と解答しているが， 1 と解答していないもの	3
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0

設問番号	解答類型	類型番号
②	<p>二</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件① (a+b) は満たしているが、条件②は満たしていないもの <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「満足している」の割合は、中学二年生よりも中学三年生のほうが高い。そこで、「高くなるのはなぜか。」と質問をしたいです。(59字) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・条件① a は満たしているが、条件① b は満たしていないもの (例1の下線部は関係箇所) 条件① b は満たしているが、条件① a は満たしていないもの (例2・例3の下線部は関係箇所) *条件②を満たしているかどうかは不問とする。 <p>(例1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「満足している」と「どちらかという満足している」の割合を合わせると、中学二年生が七十四%、中学三年生が八十四%になります。中学三年生の割合のほうが10%も高くなっていることが分かりました。(95字) →上記の例は、資料の内容を的確に捉え、割合の数値を用いているが、それを自分が分かったこととして書いているだけで、質問をしたい内容を中学生に明確に伝わるような記述形式にしていない。 <p>(例2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>中学三年生の「満足している」と「どちらかという満足している」の割合を合わせると、八十四%もあります。</u>そのことから、中学三年生に「部活動に入っただんなところがよかったですか。」と質問をしたいです。(99字) →上記の例は、質問をしたい内容を中学三年生に明確に伝わるような記述形式にしているが、中学二年生の割合は取り上げていない。 <p>(例3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「満足していない」の割合は、<u>中学二年生が3%、中学三年生が10%</u>です。そのことから、満足していない人たちに「どのようなところに満足できないのですか。」と質問をしたいです。(84字) →上記の例は、質問をしたい内容を中学生に明確に伝わるような記述形式にしているが、「満足していない」の割合は、実際には中学二年生が10%、中学三年生が3%であり、事実を誤って捉えている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の解答 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・無解答 	<p>3</p> <hr/> <p>4</p> <hr/> <p>9</p> <hr/> <p>0</p>
	<p>三</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1と解答しているもの <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・2と解答しているもの <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・3と解答しているもの <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・4と解答しているもの <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の解答 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・無解答 	<p>1</p> <hr/> <p>2</p> <hr/> <p>3◎</p> <hr/> <p>4</p> <hr/> <p>9</p> <hr/> <p>0</p>

設問番号	解 答 類 型		類型番号
②	一	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aに1・3・4, Bに2・5と解答しているもの (A・Bのそれぞれは順不同) ・ 上記以外の解答 ・ 無解答 	<p>1 ◎</p> <p>9</p> <p>0</p>
	二	<p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 中学生に対して質問をしたい内容と質問の記述形式の二つを満たしている。</p> <p style="padding-left: 20px;">a 質問をしたい内容として、資料の中の中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に触れ、「比べて違うこと」、あるいは「両方に共通していること」を取り上げている。</p> <p style="padding-left: 20px;">b 質問をしたい内容を中学生に明確に伝わるような記述形式にして書いている。</p> <p>② 60字以上, 100字以内で書いている。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「満足している」の割合をみると、中学二年生の二十九%に対して、中学三年生はそれより十五%も高くなっています。そのことから、中学三年生に「どのような理由で満足度が高くなるのですか。」と質問をしたいです。(100字) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・ 条件① b, ②を満たしているもののうち、条件① a については、割合の数値を用いているもの (例示の下線部は関係箇所)</p> <p>(例1)</p> <p>○ 「満足していない」の割合をみると、<u>中学三年生の三%に対して、中学二年生は十%で七%も高くなっています。</u>そのことから、中学二年生に「中学三年生よりも満足度が低いのはなぜですか。」と質問をしたいです。(98字) →上記の例は、中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べて違うことを取り上げ、数値を用いて書いている。</p> <p>(例2)</p> <p>○ 「満足している」と「どちらかという満足している」の割合を合わせると、<u>中学二年生も中学三年生も七十%以上です。</u>そのことから、両学年に「部活動のどんなところに満足しているのですか。」と質問をしたいです。(100字) →上記の例は、中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に共通していることを取り上げ、数値を用いて書いている。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・ 条件① b, ②を満たしているもののうち、条件① a については、割合の数値を用いていないもの (例示の下線部は関係箇所)</p> <p>(例1)</p> <p>○ 「満足している」の割合をみると、<u>中学二年生よりも中学三年生のほうが高くなっています。</u>そのことから、中学三年生に「中学二年生よりも満足度が高くなるのはなぜですか。」と質問をしたいです。(91字) →上記の例は、割合の数値を用いていないが、中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べて違うことを的確に取り上げて書いている。</p> <p>(例2)</p> <p>○ 「満足している」と「どちらかという満足している」の割合を合わせると、<u>中学二年生も中学三年生も満足度が高いといえます。</u>そのことから、両学年に「満足している理由は何ですか。」と質問をしたいです。(96字) →上記の例は、割合の数値を用いていないが、中学二年生の割合と中学三年生の割合の両方に共通していることを的確に取り上げて書いている。</p>	<p>1 ◎</p> <p>2 ○</p>

設問番号	解 答 類 型		類型番号	
1	二	<ul style="list-style-type: none"> ・条件① a, ②は満たしているが, 条件① b は満たしていないもの (例1の下線部は関係箇所) 条件① b, ②は満たしているが, 条件① a は満たしていないもの (例2の下線部は関係箇所) <p>(例1)</p> <p>○ ふうとうの中のはがきをお使いください。もし、ほう問させていただける場合は、ごつごうのよい日時をこちらから電話でうかがうようにします。(66字)</p> <p>→上記の例は、「六月の土曜日か日曜日で宮本さんのつごうがよい日時をはがきに書いてもらう」という条件① b を取り上げていない。</p> <p>(例2)</p> <p>○ もし、ほう問させていただける場合は、六月の土曜日か日曜日で宮本さんのごつごうがよい日時を<u>はがき</u>にお書きください。(56字)</p> <p>→上記の例は、「ふうとうの中のはがきを使ってもらう」という条件① a を取り上げていない。</p>	4	
		<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の解答 	9	
		<ul style="list-style-type: none"> ・無解答 	0	
		三	<ul style="list-style-type: none"> ・アに3, イに1, ウに2と解答しているもの 	1◎
			<ul style="list-style-type: none"> ・アに3, イに2, ウに1と解答しているもの 	2
			<ul style="list-style-type: none"> ・アに2, イに1, ウに3と解答しているもの 	3
			<ul style="list-style-type: none"> ・アに1, イに3, ウに2と解答しているもの 	4
			<ul style="list-style-type: none"> ・アに1, イに2, ウに3と解答しているもの 	5
			<ul style="list-style-type: none"> ・アに2, イに3, ウに1と解答しているもの 	6
			<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の解答 	9
<ul style="list-style-type: none"> ・無解答 	0			

解答類型【小学校国語】

B 主として「活用」に関する問題

◎…解答として求める条件を全て満たしている正答

○…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

設問番号	解答類型	類型番号	
1	一	1	
	・ 1 と解答しているもの	2 ◎	
	・ 2 と解答しているもの	3	
	・ 3 と解答しているもの	4	
	・ 4 と解答しているもの	9	
	・ 上記以外の解答	0	
	・ 無解答		
	二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【平川さんが書いたメモ】の「返事のもらい方」と「返事の内容」の二つの内容を取り上げている。 a ふうとうの中のはがきを返事に使ってもらおう。 b 訪問できる場合、六月の土曜日か日曜日で、宮本さんの都合がよい日時をはがきを書いてもらう。 ② 敬語（相手に敬意を表す言葉）を用いて書いている。 ③ 「お返事には、」に続くように、60字以上、80字以内で書いている。	
	(正答例) ・ (お返事には、) ふうとうの中のはがきをお使いください。もし、ほう問させていただける場合は、六月の土曜日か日曜日で、宮本さんのごつごうがよい日時をそのはがきにお書きください。(78字)		
	・ 条件① (a+b), ②, ③を満たしているもの	1 ◎	
・ 条件① (a+b), ②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	2		
(例) ○ (「お返事には、」以下、この書き出しの言葉は省略する。)もし、ほう問させていただける場合は、六月の土曜日か日曜日でごつごうのよい日時をふうとうの中のはがきにお書きください。(58字)			
・ 条件① (a+b) は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例示の下線部は関係箇所) *条件③を満たしているかどうかは不問とする。(類型4も同様)	3		
(例) ○ ふうとうの中のはがきを使って書いてもらいます。ほう問できる場合は、六月の土曜日か日曜日で宮本さんのつごうがよい日時をそのはがきに書いてほしい。(71字) →上記の例は、一文目の文末に敬体を用いているが、依頼する相手にはがきを使って書くことを指示するような表現になっている。また、二文目の文末は常体になっている。二つの文は、適切な敬意表現を用いていないものと判断する。			

解答類型

B 主として「活用」に関する問題

設問番号		解答類型	類型番号
9	一	・「一（画目）」と解答しているもの	1
		・「二（画目）」と解答しているもの	2
		・「三（画目）」と解答しているもの	3
		・「四（画目）」と解答しているもの	4
		・「五（画目）」と解答しているもの	5◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二	・「一（画目）」と解答しているもの	1
		・「二（画目）」と解答しているもの	2
		・「三（画目）」と解答しているもの	3
		・「四（画目）」と解答しているもの	4◎
		・「五（画目）」と解答しているもの	5
		・「六（画目）」と解答しているもの	6
		・「七（画目）」と解答しているもの	7
	・上記以外の解答	9	
	・無解答	0	

設問番号	解答類型	類型番号
6	・ 1 と解答しているもの	1
	・ 2 と解答しているもの	2
	・ 3 と解答しているもの	3
	・ 4 と解答しているもの	4◎
	・ 上記以外の解答	9
	・ 無解答	0
7	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【取材した内容の一部】の③と④に書かれている内容をまとめている。 ② 書き出しの言葉に続けて、一文で書いている。 ③ 20字以上、30字以内で書いている。	
	(正答例) ・ (七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、)金賞に選ばれ、来月開かれる全国大会に出場することになった。(29字)	
	・ 条件①, ②, ③を満たしているもの	1◎
	・ 条件①, ②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	2
	(例) ○ (「七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、」以下、この書き出しの言葉は省略する。)金賞に選ばれ、全国大会に出場する。(17字)	
	・ 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	3
(例) ○ 金賞に選ばれた。来月開かれる全国大会に出場することになった。(30字) →上記の例は、二文で書いている。		
・ 上記以外の解答	9	
・ 無解答	0	
8	・ 1 と解答しているもの	1
	・ 2 と解答しているもの	2◎
	・ 3 と解答しているもの	3
	・ 4 と解答しているもの	4
	・ 上記以外の解答	9
	・ 無解答	0

設問番号	解 答 類 型		類型番号
2		・ 1 と解答しているもの	1
		・ 2 と解答しているもの	2
		・ 3 と解答しているもの	3◎
		・ 4 と解答しているもの	4
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
		3	ア
・ 上記以外の解答	9		
・ 無解答	0		
イ	・ 「ふるさと」と解答しているもの		1◎
	・ 上記以外の解答		9
	・ 無解答		0
4		・ ①の会話文にア, ②の会話文にイ, ③の会話文にイ, ④の会話文にイと解答しているもの	1◎
		・ ②の会話文にイ, ③の会話文にイ, ④の会話文にイと解答しているが, ①の会話文にアと解答していないもの	2
		・ ①の会話文にア, ③の会話文にイ, ④の会話文にイと解答しているが, ②の会話文にイと解答していないもの	3
		・ ①の会話文にア, ②の会話文にイ, ④の会話文にイと解答しているが, ③の会話文にイと解答していないもの	4
		・ ①の会話文にア, ②の会話文にイ, ③の会話文にイと解答しているが, ④の会話文にイと解答していないもの	5
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
		5	ア
・ 上記以外の解答	9		
・ 無解答	0		
イ	・ 「工芸品」と解答しているもの		1◎
	・ 上記以外の解答		9
	・ 無解答		0

解答類型 【小学校国語】

A 主として「知識」に関する問題

◎…解答として求める条件を全て満たしている正答

○…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

設問番号	解答類型	類型番号	
1	一 (1)	・「けんちく」と解答しているもの	1◎
		・「けん」と解答しているが、「ちく」と解答していないもの	2
		・「けん」と解答していないが、「ちく」と解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (2)	・「どくりつ」と解答しているもの	1◎
		・「どく」と解答しているが、「りつ」と解答していないもの	2
		・「どく」と解答していないが、「りつ」と解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (3)	・「ゆる（す）」と解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二 (1)	・「医者」と解答しているもの	1◎
		・「医」と解答しているが、「者」と解答していないもの	2
		・「医」と解答していないが、「者」と解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二 (2)	・「太陽」と解答しているもの	1◎
		・「太」と解答しているが、「陽」と解答していないもの	2
・「太」と解答していないが、「陽」と解答しているもの		3	
・上記以外の解答		9	
・無解答		0	
二 (3)	・「布」と解答しているもの	1◎	
	・上記以外の解答	9	
	・無解答	0	

2 解答類型

A 主として「知識」に関する問題

調査問題一覧表 【小学校国語】
B 主として「活用」に関する問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式		
			聞話	書	読	国伝 語の 特質 に 関 する 事 項	関 心 ・ 語 意 欲 ・ 態 度	話 す ・ 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	知 言 識 語 ・ に 理 つ 解 ・ い 技 て 能 の	選 択 式	短 答 式
1	一 目的や意図に応じ、依頼する具体的な内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、書く事柄を整理する		○				○			○		
	二 目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書く		○		○	○	○		○			○
	三 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名のそれぞれの位置を適切に選択する	手紙の構成を理解し、後付けを書く		○				○			○		
2	一 参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理する	司会として収集した情報を捉え、まとまりごとに整理する	○					○				○	
	二 提示された資料を読み取った上で、相手に対して質問をしたい内容を明確にして発表するように記述する	資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表する	○	○				○	○	○			○
	三 話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進めようとする司会の役割を適切に説明したものを選択する	司会として話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進める	○					○				○	
3	一ア 雑誌の特徴の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉える			○					○		○	
	一イ 記事の特徴の説明として適切なものを取り出して書く				○				○			○	
	二 編集者の意図を説明したのとして適切なものを選択する	編集者の意図を捉える			○					○		○	
	三 目的に応じ、複数の記事を結び付けながら読もうとするとき、該当する記事の見出しとして適切なものを選択する	目的に応じ、記事を結び付けながら読む			○					○		○	
四 二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する	複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつ		○	○			○	○	○				○

調査問題一覧表 【小学校国語】
A 主として「知識」に関する問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式				
			聞話	書	読	国語の伝統的特質に言語文化事項と	関心・語意欲・態度の	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・語に理解・技能の	選択	短答	記述	
1	一 (1) 漢字を読む (新しいビルを建築する)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○					○		○		
	一 (2) 漢字を読む (親から独立してくらす)					○					○		○		
	一 (3) 漢字を読む (参加することを許す)					○					○		○		
	二 (1) 漢字を書く (病院でいしやにみてもらう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○					○		○		
	二 (2) 漢字を書く (東からたいようがのぼる)					○					○		○		
	二 (3) 漢字を書く (白いぬのを青くそめる)					○					○		○		
2	話し手の話の内容を聞きながら書いた質問について、その狙いを適切に説明したものを選択する	狙いを明確にして質問をする	○					○				○			
3	ア 収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から適切な内容を取り出して書く	目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合う	○					○						○	
	イ 収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から共通する内容を取り出して書く		○					○						○	
4	四つの会話文の音読の仕方として適切なものをそれぞれ選択する	場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読する			○					○		○			
5	ア 百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉える			○					○				○	
	イ				○				○				○		
6	創作した物語の語り手が寄り添っている人物として適切なものを選択する	表現の効果について確かめながら物語を創作する		○	○				○	○		○			
7	新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く	目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く		○				○		○				○	
8	日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を適切に捉える	日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解する				○						○	○		
9	一 学年別漢字配当表に示されている漢字(申)の正しい筆順を適切に捉える	学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書く				○						○		○	
	二 学年別漢字配当表に示されている漢字(赤)の正しい筆順を適切に捉える					○					○		○		

1 調查問題一覽表



本書の一部または全部を無断で転載，複製することを禁じます。